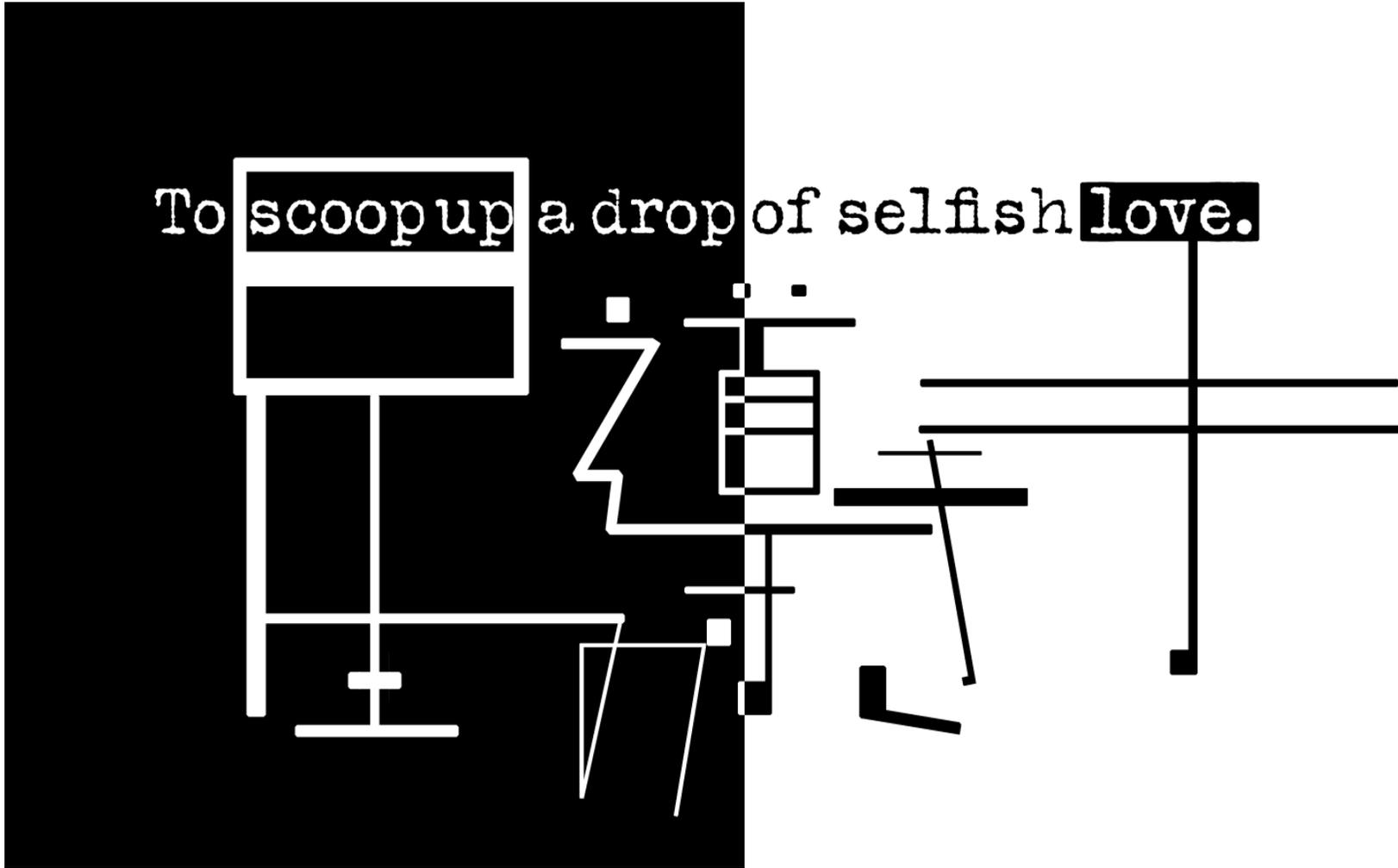


To scoop up a drop of selfish love.



「星の導き手」 第1章

To scoop up a drop of selfish love.

(英題⇨身勝手な一雫の愛を掬いに)

他例「星の導き手、滅びの巫女」

「星の導き手、滅びの巫女、呪われし龍」

「ただ、その背中を追いかけて」

「そこにあるのは、真実か作り出たものか」

「その頂にあるのは、真実か否か」

照砂 龍理

スーラジ・アマン・マノイ

カシユミリアン・バルカ・ノートケット

ドゥバーラ・ピールカロ (愛再びのヒンディー語)

レドリ・ミルテン

シターラ・マールグダルシャク (星の導き手)

コンセプトマニユプレイター (概念を操る人)

ノーテイス (気づいた)

概要

ここ、エク・サースは大きな霊峰4つの真ん中に位置する商業地下都市機構搭載型境界駅でこの四霊峰に挑まんとする人々が英気を養う場所である。売店や宿に始まり、飲食店やギルド、ガイドの紹介所など登山に必要なものは全てここで手に入る便利な場所である。そこに現れた一人の人間から続いていく絶望と哀しみ、希望の物語。

リリユー

すいません、この人を知りませんか？

(この作業を何回か繰り返す)

(行動後に飲み屋にたどり着く)

(第二中心街ヴァクラ・マタのとある飲み屋にて)

(かなりにぎやか)

(一人入店から注文の流れ、後の板付き、そこに二人が入ってくる)

(二人はカウンターに行き、飲み物を注文、一口飲んでから、場内を見渡す、席がないから探す)

(その二人を見て、一人が席に誘う)

相席でよければ、ここどうぞ

それはありがたい、お言葉に甘えよう(相槌)

世の中助け合いだな、ここはそういった精神で溢れた素晴らしい場所さ、詐欺師も多いけどな

はは、気をつけます

私はスーラジ、こっちはカシユミリアン

カシユと呼んでくれ、よろしく

私はリリユー・テツサです

ここのレモン漬けは食べたか？すごく酸っぱいが疲れが吹き飛ぶぞ！ 酒にも合う！ ほら！

(3人で食べる、かなり酸っぱい、けどおいしい)

その名前だと東の人間だな？

はい

遠路はるばるよくきたな、のめのめ

(皆ぐびぐび)

東からの客人は最近では滅法珍しい、何か目的があるのかい？

カシユー

ただの登山でここにくる人間なんてほぼいないからな、誰しも何かしら心に秘めて来るものだ、それかかの有名な金色の魚でも探しにきたのか？

リリユー

写真家をしていまして、今回、仕事でドウバーラ・ピールカロの四合目に白羽の矢が立ったんです

カシユー

ほう、またこの四霊峰の中でも難しいのに当たって災難だなあ、でも四号目は雲と重なる場所だからあまり眺めは良くないぞ？

リリユー

まあ、ははは

スーラジ

こここの他の山には登ったことあるのか？

リリユー

いや、ありません

スーラジ

それはまずいな、ドウバーラは四霊峰でも随一に複雑で難しい山だ、だから初心者はル・カルテリオンからが相場なんだ、今からでも遅くはないやめておけ
どうしてもドウバーラじゃなきゃいけないんです

スーラジ

死ぬぞ？

カシユー

まあまあ、まあまあ

カシユー

ドウバーラの名にビビらずここまで来ただけでも俺はすごいと言っただけだよ

スーラジ

(ため息) 新しい酒をとってくる、お前は？

カシユー

同じのを

スーラジ

君は……まだあるか

(スーラジ、

バーカウンターに行く、飲み物注文の流れをやる、一人で少し飲む、何か食べる)

カシユー

悪く思わないでくれ、あいつはとにかく仕事に真面目だし、昔ある事件があっただけから命に敏感でね、だがもちろん俺だって初心者にドウバーラは進めたくはな

い、軽い気持ちであの山の贅になる人間を大勢見てきた

リリユー
そうなんですね、やっぱり難しいのか

(もじもじ)

カシユー
ははーん、へえ、おい！スーラジ！面白いことになった

リリユー
え？ なんですか？ え？

(スーラジ帰ってくる、座る)

カシユー
こいつは写真家じゃない！
ん？

何か他の目的があるとみた

リリユー
そんな！ え！

俺にはわかる(ぐびぐび)

スーラジ
いつもの酔った話なら聞く耳は持たないぞ

カシユー
まあまあ、俺は実は占い師もやっていてね、人様のお悩みから、登山のタイミングまでなんでも占う

(カード？しゃしゃしゃ)

(なんでもいいので占いの所作で一つ答えを出す)

カシユー
ははあん、お前さん、人を探しているのか、いや会いたい人？

スーラジ
そうなのか？

リリユー
え！ いやいや！

カシユー
あっはっはっは、凶星だな！ もういいじゃないか、せっかくの出会いだ

カシユー
お前さん、本当は何しにきた？

暗転？

リリユ一

もちろん噂だと言うのも知っているんですが、僕はどうしてもその場所に行きたいんです、行かなくちゃ、いけないんです

(ずるずる)

ス一ラジ

探しているのはその人のこと？

リリユ一

いえ、その場所に行くためには通常のガイドではなく特殊なガイドを雇わなきゃいけないと聞きまして、でもその特殊なガイドを語った詐欺師も多いときいて困っていて、ようやく分かったのはガイドの名前がシタ一ラさんと言うらしいってことだけで

(ずるずる)

ス一ラジ

君は亡くなった人に会いたいのか？

リリユ一

はい

ス一ラジ

それは君にとってどんな人なんだ？

リリユ一

私のもとても大切な人です

ス一ラジ

自分が望む人に必ず会えるわけではないと聞く

リリユ一

必ずその人が現れるはずです

ス一ラジ

亡くなったその人に会って何がしたいんだ？

リリユ一

聞きたいことがあるんです

ス一ラジ

聞きたいこと？

リリユ一

私を、赦してくれるか、と

(ずるずる)

ス一ラジ

望む答えが返ってこなかったら？

リリユ一

……。

ス一ラジ

君にそれを受け止める覚悟はあるかね？

リリユ一

それでも、聞きたい、聞かなくてはならない

ス一ラジ

その場所に行くにはそれは想像を絶する大変な旅になると聞くがそれでも行くかね？

リリユー はい、そのために私はここにきました

(間を置く)

(ずるずる)

スーラジ 君が探している人を私は知っている

リリユー え！

カシユー おい！

(焦りガチャン、ちよつとこぼす)

(ホットワイン、飲み干し)

スーラジ カシユミリアン、これは久しぶりの我々への導きかもしれない

カシユー 何を馬鹿なことを、こんな短い時間であんたはこいつに何を見た？

スーラジ 救いを求めている、それは救わねばならない
それを見定めるには時間が足りん

スーラジ しかも多分、コンセプトマニユピレイターだよ

カシユー まさか！ こいつがノーテイス？ ありえないね

スーラジ かけてもいい

カシユー はああ、勝手にしろよ、毎度俺に決定権はないだろ
きつと楽しくなるさ

(ポカン……)

スーラジ 改めて、私たちは「シターラ・マールグダルシヤク」
君が探しているガイドだ

カシユー シターラさん「達」な

リリユー まさか、私が探していた星の導き手？

スーラジ よく知ってるね、君が望む場所に案内できる数少ない
人間だよ

カシユー かー、これから準備が大変だぞ、こいつは何も持って
なさそうだ

スーラジ

申請などは私が全て行うから、そうだな、その場所に
向かえるのは一週間後だな

リリユー

はい！ よろしくお願ひします！

カシユー

詳しい話はまた明日

スーラジ

じゃあ、まずは契約の証に乾杯を

(乾杯する) いやさか、いやさか

もし万が一のことがあったら、どんな方法を使ってもいいから必ず

会いにきてほしい、一度だけでいいから、その時に全

部話すね

「星の導き手」 第2章

・水は如何なる時も天より流れ、必ず大地を潤した。

ザ・ブラック

マリオネイター

プロンプト・デス（死を促す）

ウツタール（応える）

シャイターン（悪魔）

アンディエーラ（闇）

「未だ降らぬ、その雨は」

（スーラジ板付き、カシユー上手から）

カシユー おはよう、もう時期審査が終わるらしい

（歩きながら喋る、窓際に移動する）

（文章を書いている、タバコを吸いながら）

カシユー あんたは毎度、しっかり書いてるよな、しかも毎度ス
ラストラと、しかも2通も

スーラジ ん？ ああ、これか？ これでも悩んで書いているさ

カシユー ドゥバーラ登山要項第3章、登山者は必ず登山前に遺
書を自著にて記し、最低1通は必ず提出すること

カシユー 誰に書いてるか、聞いたことなかったな

（覗く、ヒョヒョイ）

スーラジ 別に隠すことのことでもない、雄一郎と雄一郎の娘の
明奈に宛てて書いている

カシユー ああ、そうか、まだその二人に書いているのか

スーラジ これは永遠に変わらないよ

カシユー
はあ、あんたも相変わらずだな、もう誰もあんたの罪を責めたりはしないよ

スーラジ
私自身が自分を赦していないんだ、あの愚かな時代を私は未だに洗い流してはいない

カシユー
んんん、もちろん仕方なかったとは言わないが、んんん、なんとさえいばいいのか、雄一郎さんだってそんなこと望んでいないんじゃないか

スーラジ
どうだろうな、彼はなんと言うだろうか、怒るかな、ちなみに明奈は永遠にそうやって苦しめと笑いながら言っていたよ

カシユー
性格わる

スーラジ
いや、むしろ彼女は呪いをかけてくれたんだと思う

カシユー
呪い？

スーラジ
人はなぜ生きなくてはならないのか、人間の生きる意味とは？ そう永遠に悩まなくてはいけないということとは死を以て逃げることを許さないということだと、当時抜け殻になっていた私に不器用だけど立派な生きる理由をくれたんだと思うんだ、彼女は雄一郎に似てひどく世話焼きでも優しいからね

カシユー
あいつがそこまで考えて言うほど気の利く女かなあ

スーラジ
はっはっは、けど僕はこの言葉に救われたよ、そして星の導き手になることを決意したんだ

カシユー
こんな危ない仕事になんかついちまってほんとに、あれだけ止めたのに

スーラジ
だけど最後は君が口利きをしてくれただろう

カシユー
っけ、そうだったけな、覚えてないね！

(ふんふーん)

カシユー あ、そういうえばバーのおっちゃん追加の配達があったって言ってたな、手伝ってくるかー

(扉の前まで行く)

カシユー 結局一番救われなくちゃいけないのは、あんたかもな

(へッ！ ガチャン)

スーラジ ……。

スーラジ まだ、私の番ではないよ

「人の奥の奥、それぞれの地獄」

(酒場にて)

(リリユーが文章を書くのに悩んでいる)

(スーラジ入店、リリユーが気づいたらいたた的な導入)

スーラジ 険しい顔だな

リリユー ああ、スーラジさん、こんにちは

スーラジ 遺書か、私も毎度苦労する、未だに慣れない

リリユー 遺書なんて書いたことなくて、なかなか難しいもの

すね、別に今さら生への執着があるわけでもないのに
いざとなったら自然と抵抗してしまう、不思議なもの
です、人間の性質というのは

スーラジ 皆そう言うよ、四霊峰の中で遺書の提出が義務化して
いるのは二つだけだが登山前の作業で一番大変だっ
ね

リリユー やっぱり、そうなんです

(カキカキ、うーん)

スーラジ 私がいると邪魔かな、そう言うものは一人で書いたほ
うが書きやすいものかもしれない

リリユー　いえ、なんか一人で書いていてもパツとしないので良

かったら

スーラジ　そうか、なら隣でお茶をさせてもらおう

(バーカウンターより温かい紅茶を二つ注文、持ってくる)

る)

スーラジ　誰に向けて書いているんだい？　それとも未帰還者用

か？

リリユー　未帰還者用？

スーラジ　誰に宛てるわけでもなく、万が一登山者が未帰還者に

なった場合に親族や友人がこの街に辿り着いた場合に

のみ開示される形式があるんだ

リリユー　そんなこともできるんですね、私は父と母宛です

スーラジ　そうか、ご両親にこの登山のことは言っていないのか

い？

リリユー　もうしばらく会えていないんです、少し事情があつ

て、接見を禁止されているんです

そうか

……。

聞かないんですか？

ん？

リリユー　理由を。一緒に山を登る人間がどんな素性なのか、

気になったりしないんですか？

スーラジ　人には誰しも様々な事情があるものさ、特にこの街に

来る人間なんて皆そんな人ばかりだ、君が話したいの

だったら私は聞くし、話したくないのなら無理に聞く

必要がない、それでガイドに影響が出たりはしないか

ら安心してほしい

(ズズ)

リリユー スーラジさんは誰に宛てて書いたんですか？もしよかったですら

（アクション必要、空間伸ばしどころ、見せ所）

スーラジ 私の友であり、兄であり、父でもあった男性に宛てて書いている、そしてその男性の娘さんにも宛てて

リリユー 大切な人達なんですか？

スーラジ そうだね、なんと云えばいいのか、贖罪、みたいなものさ

リリユー 贖罪、ですか

スーラジ 私の自分勝手なものだけどね、される側は迷惑と思っているかも知れないな

（ズズズ）

リリユー スーラジさん、神様はいると思えますか？

スーラジ 君のような東洋人の信じる神とは違う神を私も一時期信仰していたが、結局のところは神がこの世にいるのかはわからなかった

……。

リリユー ……。

スーラジ だが、きっとドゥバーラに行けば何かしらの答えが手に入るかもしれない、その時初めて神というものの存在を実感し、それが信仰に値するのかわかることができるのかもしれないね、その為に君はここに来たんだろう？

リリユー はい、そうですね

（紅茶を飲み干し、立ち上がる）

スーラジ 何か気になることや困ったことがあったら、なんでも言ってみて欲しい、

リリユー ありがとうございます、そう言っていたらと助かります

幕間 「あなたとの約束、悪魔との契約」

(一人語り、要検討)

私はかつて医者だった。

平凡ではあるけど裕福な医者家系に生まれ、幼少期から親に敷かれたレールの上を歩き、何事もなく医者になった。思えば医者になって数年経った頃に能力の発現が確認されているらしい。

思えば、不思議ではあった。あまり専門ではない手術のやり方が急にわかったり、その手術を成功させてしまったり、病気の原因を本来の部分ではないところから見事的中させたりなど、日に日にそう言った事例が増えていった。自分は選ばれし人間なんだと思った、生まれてこの方、自分なんてものを持たなかった私は自身が多くの人間を救うために生まれてきた救世主のようなものだ、今思えば愚かに悟ったのだった。だが名医と評価される反面、多くの敵も作り、医療方針で勤め先の病院と揉めて限界地方にある港町の小さな病院に左遷された。そんなある日に一人の患者に出会った。粗暴の悪さからいくつもの病院をたらい回しにされた患者らしく、行き場のないところを院長が拾ってあげたらしい。私はその患者の担当になった。私はこの病院内での評判も良くなかったので仕事も回されず、他にやることもないためその患者と多くの時間を過ごした。最初は治療を拒否されたり、ただただ罵り合ったりと良い関係ではなかったがじきに仲良くなって多くの話をするようになった。生まれは自分と同じ医者の家系でしかも大きい病院の直系の生まれ、幼少期から様々な派閥争いに巻き込まれながらも持病の影響で親の期

待には応えられず、加齢と共に持病は悪化していく中で生きる気力を徐々に失い、人間を憎むようになり粗暴が悪くなりたらい回しにされ、この病院に来たという。知れば知るほど、どこか自分とは正反対のような、それでいてどこか自分と似ているような不思議な気持ちになった。そしてそんな患者を心の底から救いたいと思うようになった。思えば今までそんな感情を抱いたことなんてなかったかも知れない。ある日のこと、院長との会話で患者のある事実を知った、その患者の治療費はもうじき支払われなくなることで、そうすれば必然的に患者の命が終わりを迎えること、あまりその病の研究が進んでいないため治療には多くの資金が必要でありこの病院では流石にカバーできないということ、それを聞いた私はその状況を打開したい気持ちでいっぱいだが左遷されて以来、薄給となった私には到底用意できない金額で頭を抱えた。そんな時、私の能力の噂を聞きつけて尋ねてきた黒いコートに身を包んだ男性が話を持ち掛けてきた。内容は能力を使った闇医者業の依頼だった。あまりに報酬が多かったことや患者の命を救うための技術の勉強、現場経験の取得の為、私は二つ返事して仕事に協力した。最初は人を救うのだからなんら問題ないだろう、これは仕方ないことだと思いうようにしていた、時期に仕事の頻度が増え、様々な種類の手術、治療を行う中である事件をきっかけにこの闇医者業の患者は皆、悪人であることを知った。そして自分が想像以上の悪事に加担し、実は治療のために多くの善人の命をも奪っていたことを知り、いてもたってもいられなくなった私は現場を逃

げ出し、追われながらも病院に舞い戻った。患者の治療費は自動的に報酬から振り込んでいたため患者の延命は続いていたが、しばらく見ないうちに患者はひどく憔悴していた。そして患者の身体はいよいよ限界を迎える可能性がある状況だと聞いた。私は今までの経験を持って自身で患者の手術をすることを決意した。今の自分なら出来る、多くの事を学び、能力の上達も実感している、必ず治せる、なんてったって私はまがいなりにも多くの人間を救った名医なのだから。そして手術を無事終えたら、ここを出てどこか遠い場所で2人静かに暮らそうと約束した。だが手術は失敗した、患者は静かに息を引き取った。

のちに分かったことは私のこの能力が「愛した人間には効果を発揮できない」ということだった。

「星の導き手」 第3章

ソルデオ

ヴィナーシユカ・シャイターン（滅びの悪魔）

大興寺家

大興寺 凧弓 だいこうじ なぎゆみ

人類想像力研究所 Human Imagination Institute

ヒューマンイマジネーションインスティテュート

略称 人想研 英略称 HII(ハイアイ)

未来で起こるであろうとされている「グランデ・インコントロ事

件」(第4章参照)によって人類が地球上から消え去

るのを未然に防ぐために複数のネイロブと日本を中心に作られた秘密国家組織。自身の想像したものを自身が生み出す限られた空間に展開し、戦闘や調査などを行う特殊技術「イマジナリアクト」を扱う「執行官」が所属している。人類及び、地球の守護と敵対するレギオン(ネイヴィル)の殲滅を主な任務としている。ときに「執行官」を「概念使い」、使う力の一つを「概念殺し」と呼んだりする。

・人想研 所属者(一部)

棧俵 宗太郎 さんだわら そうたろう

総本部長兼、国属管理官、元陸上自衛隊2等陸佐

榎川 洸辰 ならかわ こうたつ

国属管理官特別補佐長、現航空自衛官3等空佐

黒柄 玄一　くろがら げんいち

一級執行官兼、総本部次長

大木 星人　おおき せいと

一級執行官兼、警視庁警部補 出向中

朝江 読子　あさえ よみこ

準一級執行官

巳柱 佳奈桐　みはしら かなぎり

二級執行官、元航空自衛官空曹長

東 仁月　ひがし じんげつ

二級執行官

ノーティス

「イマジナリーアクト」を扱える素質のある人間を指す言葉。ノー

ティスには独特の空気感があると言われており、ノーティス同士は共鳴を感じる場合もある。だが「イマジナリーアクト」を扱えるか否かはまた別の判定が必要。

コンセプトマニピレイター

「概念使い」の別の呼び方。イマジナリーアクトを自分の意思で自在に扱える能力者を指す言葉。人想研所属の執行官以外でもイマジナリーアクトを扱う人間は存在する。

「長いものにはなんとやら口が悪いやつにもなんとやら」

(祈りの間にて)

スーラジ　ちよつと待ってください！

ソルデオ　なんだい、騒々しいね、こちらもう老人なんだから

(ごによごによ)

スーラジ　承認不可ってどういうことですか！

ソルデオ　不可は不可なんだろうさ

(スパ―、フー)

スーラジ　理由を教えてください

ソルデオ　理由なんて今まで知れたことがあったかい？　山々の

判断は秘匿されるものだ、あんたごときが知れること
はないよ、こんなのはいつも通りだろう？

スーラジ　……。

ソルデオ　ふんっ、納得のいってない顔だね、それとも何かい？

今回だけは特別だとも言いたいのかい？　この仕事
には何があっても私情を挟むなど言っただよ！！

(ばかたれが！)

(激昂)

ソルデオ　理解したなら出ていきな

スーラジ　……。

彼はここであの場所に行かなければ、彼の今後の人生
に大きな影響が出てしまうんです、ここが彼にとって
の最後の正念場になるかもしれないんです

ソルデオ　がたがたやかましいね！　だから何なんだっていうん

だい、あんたの主観の話なんかにあたしは興味ない
よ！出ていきな！

(わちゃわちゃ)

榎川 まあまあ、そこまでいうなら私は話が聞きたいです

よ、少し興味が湧いてきました（モグモグ）

（ふんっ）

ソルデオ まだいたのかい、面倒ごとは大嫌いさね、ここには世

話焼きな人間しかいないのかね、ええ！

榎川 なぜあなたがそこまで彼に肩入れするのか？ まだ会

って間もないであろう見知らぬ東の人間になぜ興味が

湧いたのか？

スーラジ あなたは？

榎川 申し遅れました、日本から来ました榎川です

スーラジ 公安ですか？

榎川 まあ、違いますが似たようなものです、覚えが？

スーラジ いや

（ふむ）

榎川 単純にお聞きしたいのです、なぜ、そこまで（彼に）

肩入れを？

何か特別なことでも、お知りになった？

スーラジ ……。

榎川 もしかして自分と何かを重ねているんですか、滅びの

悪魔さん

スーラジ ……。

榎川 ヴィナーシユカ・シャイターン、かつこいい名前です

ね

カシユー おい、その辺にしとけよ、外人、舐めた口を聞くと四

霊峰の怒りを買うぞ

榎川 初対面には丁寧な言葉を使うって習わなかったか、原

住民風情が

カシユー なんだとてめえ

スーラジ いいんだカシユー、すいません

榎川 (彼を) 今すぐ引き取りたい、だから登山をさせるわけにはいかない

スーラジ リリユーを？

カシユー 山々の判断を人間が覆したのか？

(ふんっ)

ソルデオ いろいろあるのさ、ガキなんかにわかってたまるかね
リリユー、ふむ、ここではそう名乗ったんですか、本

榎川 名を照砂龍理、日本で数々の事件に関与した闇医者
で、時には神の眼を、時には悪魔の腕を持つなんて言
われたりもする重要国際指名手配犯、弁明の余地など
どこにもない

榎川 それらを知っていましたか？ ん？

スーラジ いえ

榎川 彼は隠していたわけだ、自身の本当の素性を、あなた
方を騙していた、次に命を狙われるのはあなた方かも
しれない

(カシユーにずいずい！)

榎川 臓器移植も得意だそうですよ、その礼を欠く脳も取り
替えた方が良いのでは？そんな質の低い脳と急に交換
するとなると相当質のいい脳じゃないと互換性がない
かと思いますが、こんな辺境の地にそんなものがある
とも思えませんけども

カシユー ……。

榎川 とにかく話は終わりです、出発は明日の朝、なのであ
なた方のお仕事は今日までです、それでは失礼します

(榎川、退出)

ソルデオ 話が終わったなら、あんたたちもでていきな！けっ！

「さあ我が永遠の愛しき人よ、果てなきその場所で悪魔の旗を振れ、」

(一人語り、要検討)

私もかつて医者だった。

歴史ある医療家系に生まれ、幼少期から多くの派閥争いに巻き込まれたが別にそれは気にはならなかった。全ては人類が脈々と受け継いできた医療技術をより高みへと繁栄させ、更にその遙か彼方へ至るため、それは人類が栄光ある明日への歩みを止めないため、いつだって希望を失わない人類達を必ず救うため、それに生涯をかけて尽力し、必ず殉ずること、それが私の誇りだった。そんな境遇を愛していたくらいだった。周りのぬるい志を持った患者達には興味も持たなかった、収入や地位に群がる翅虫に翻弄される屑をも押し退けて私は順調に相応の力を手に入れていった。私が担うのだ、私を支えるのだ、私が多くを救うのだ、そう信じてやまなかった。だが直にその役目は私が担うものではないと知る、持病の急激な悪化に伴い、神経、視力に影響が出始めた。私は見る側ではなく、診られる側になった。

たかが絶望になど1日でこと足りる、人類はいつ何時、何があるかと歩みを止めてはならない。

今の自分にできることをしなくてはならない、今の自分にしかできないことが必ずあるはずだ、たとえ私が旗を振れなくても、その旗を振る者の礎にはなれるはずだ。もがく自分のところに監査依頼が来た、今業界を騒がす神の眼を持ち、悪魔の腕を持つ医者だという。半信半疑で手術の見学に行ったが私は目の前の光

景を疑った。手際がいいという次元ではない両腕の動き、言うなればそれは触手のようで腕の数が何本にも見えた。眼も忙しなく動くがそこに無駄はなく、患者の患部に留まらず手術室の全てを同時に把握し、見学をしている我々のことすら見ているような印象を持った。手術は予定の時間よりも42分も早く終わった。学者は異常だと喚き、他の医者も見ただともない異物を見る目をしていた中、私はその医者鋭く野心に溢れながらも奥に大きな慈愛を持つ眼に心からの羨望の目を向けていた。

ここにいたのだ、私に変わって旗を振る者が。

これで医療の繁栄は約束されたのだ。すぐさま私はその医者を囲い込むために行動を起こしたが存外様々な障害に苦戦を強いられた。そんな中でも持病は着実に悪化し、焦りを感じてもいた。囲い込みに苦戦する中でその医者は業界の中で揉め、干すために左遷されたと聞いた、すぐさまその病院はどこかを調べるが思いの外、情報は錯綜しており、中々特定することができなかった。日に日に弱る体に鞭を打って行動を続けてきたが、ある日ふと考えてしまった。私は一体何をしているんだろう、何もかもを投げ捨てて走ってきた、全てはこの医療業界のためにしてきたことなのに妨害は当たり前、駆け引き、謀略、繁栄ではなく衰退に力を注ぐ人々に辟易し、私はなぜ頑張っているのかがわからなくなつて涙が止まらなくなつた。そんな私を心配した母が休養と治療のために遠い田舎港の小さな病院に名医がいるとの話を聞きつけて、そこにしばらく入院することになった。私の担当になった医者はヒョ

ロい身体に弱々しい見た目だった、暇なのかよく病室に来る癖に仲良くする気がないのか、どこか私の勘に触る言動が多く、医療方針の齟齬で罵り合うことが多かった。だけどその医者の方々の言葉の節々に感じるのは強い熱意と患者を救いたいという願い、そして自分ならそれができるといふ浅はかな自信、どれも昔の私を見ているようだった。そして目の中には大きな慈愛が見えた気がした。だが入院してしばらくして母の訃報を聞いた。母の死の影響は父や兄弟に波及し、大事な派閥争いでしくじってしまった、私の家系は業界で力を失い始めた。その影響で私の持病の研究も滞る形となり、私が生きている間での持病の完治は絶望的となった。母の葬式を終え、病院に戻ってきて一息ついてから病院のバルコニーに向かった。そこから見える景色は海と山のバランスがとても美しく私のお気に入り場所だった。そんな今日も海面は光輝き、漁船の航行の跡が綺麗な放物線を描く、山は優しく雪化粧を始め、歩く人々も温かなコートに身を包み小走りで消えていく。終わったのだ、全て。私の全てはここで終わる。もういいのだ。

絶望に落ちるには一瞬でこと足りる、人類はここまでよく頑張った、もう諦めてもいい、もう全てをやめてしまってもいい、誰かがそう言うってくれるのを皆どこかで待っている。

そんな私の背中を静かに摩る手があった、だがそんな何もできない手など必要なかった、私はただ泣き叫んでいた。それでも摩る手は止まることなく私を温め続ける。私には悪魔の腕がある、時間は少しかかるかも

しれないが必ずその病を治してみせる、私はもう一度必ずどんな形であれこの世には生きる価値があるとあなたに思ってもらうためにどんな手を使ってでもあなたを治す。私はあなたを〇〇ているから。最後はうまく聞き取れなかったことにした、「何を言ってるんだ、こいつは」と思った。だが今の私には確証などなくともそんなどこかくだらないけど希望に満ちた言葉が必要だったのかもしれない。その日からその医者はいあまり病室にはこなくなつた、だが業界紙やニュースでその医者の名前をよく眼にするようになった、内容は様々な手術法の考案や病気の検査方法の見直しなど多岐に渡つた。たまに来て話してくれる話には業界で立ち回りや協力してくれる人脈の少なさなど実技ではなく体制にやられていくものばかりだった、そこに助言をしつつその私の言葉に感心して笑い、張り切つて立ち上がつていく医者姿を見てふと思つた、私はここで何をしているんだろう。たとえば身体が動かなくてもこうして会話ができて、ものを考えられて、何を不自由があろうか。そうだ、忘れていた、人類はいつ何時、何があろうと歩みを止めてはならない。きつと母も生きていたらそういうだろう。私はすぐさま関係各所に連絡をし、その医者が何事もなくうまく立ち回れるように病室からできる根回しに全力を注いだ。その日々の最中、この国には自身の想像を具現化する能力を持つ人間を集め、それを悪用する者と戦う組織があることを知る。そしてその組織の資金援助を家系全体が代々行なっていることも同時に知り、その組織に協力の申し出をし、私も所属、協力することになった。そ

して研究を進めていくとその医者がその能力を無意識に使って多くの人間を救っていたことがわかってきた。たとえその医者の力が番人に与えられるものでもなくとも、その能力使用中の姿をカメラで正確および多角的に録画することによって、手術法を論文化、それをすることによってこの現代の医療技術は格段と向上させることができる」と判明したため、組織をあげて彼をフォローすることにもなった。その医者の頑張りや日々を追う毎によく伝わってきた、疲弊した顔をしつづもどこか希望を持つ輝く姿にどこか惹かれていた。だが研究を進めていくうちにある事実が浮上した、医者その能力は特殊条件下だと発動がしないかもしれないと言ったことがわかった、その条件は医者自身がその治療対象の人間を「愛しているかどうか」ではないかと予測された。もし例えそうであろうがそうでなからうが私には大したことはなかった。そう、大事なことは現代医療の更なる繁栄、より多くの人間が助かる世界なのだから。ある日のこと、長く文通をしている少女から死者に会える山があるという話を聞き、しかもその案内人が少女のしもべ？でもあるという面白い話を聞き、私は閃いた。すぐさまそのしもべさんと連絡を取りたいとお願いし、私の何もかもを説明して、最後のわがままを聞いてもらった。しもべさんは過去の出来事の関係で日本に入国することができないらしいが、ビデオ通話を何度もかけてきてくれて必ず約束を果たすと言ってくれた。

そして運命の日は来た。それなりに万全を期したであろう医者がすぐ戻ってきて手術の担当に名乗り出た、それがただ嬉

しかった。この手術を無事終えたら、ここを出てどこか遠い場所で2人静かに暮らそうと言われた、それは夢のような幸せなことだねと約束した。

「もし万が一のことがあったら、どんな方法を使ってもいいから必ず会いにきてほしい、一度だけでいいから、その時に全部話すね」

目の前が明るい、彼の顔が見える、目の中には大きな慈愛が見える、私は彼に今愛されている、それでいい、意識が遠のいていく、私は彼に今愛されている、それがいい、どうかまた会うその日まで、私のことを愛していて。

「さあ我が永遠の愛しき人よ、果てなきその場所で悪魔の旗を振れ、その旗を目印に我もいつかその場所へ」

「それはルールなんかより、大事な約束」

スーラジ リリユーさん、荷物をまとめてくれ

リリユー え！どうしたんですか

スーラジ 出発だ、今日の夜、登山に出発しよう

カシユウ 何言ってるんだよ、スーラジ！

スーラジ あの日本人は私たちの仕事は今日までだと言っていた、ならそれを今日全うしてやるんだ

カシユウ だが夜の出発は危険すぎる！

スーラジ 夜明け前ギリギリを狙う、門番にもあとで話をつけてくる

リリユー そんな危ない話になってるんですか？登山の許可は降りなかったんですか？

スーラジ ああ、国産指名手配の君を追ってきた日本の組織の間が来ている、君を強制送還するつもりだ

リリユー そんな、いや、お二人を騙すつもりはなかったんです、僕はただ

スーラジ そんなことはどうでもいい、どうでもいいんだ
実は私は君のことを前から知っている

リリユー え？

スーラジ 君が何をしてきたのかも、ここに来ること自体も実は知っていた、君がどうしてここに来たのかも

リリユー ……。

スーラジ 行かなくちゃならないんだろう？いや、行かなくちゃいけないんだ、それが君の想い人の最後の願いだったはずだ、こんなところで躓いていいのか

リリユー ……。

スーラジ 会いに行こう、最後の約束を叶えにしよう

リリユー はい！

スーラジ カシユ一

ああ、言うな言うな、俺に諸々を隠していたのは少々苛立つがそれなりの理由があったんだろう、あんた一人でこの危機は乗り越えられない、ましてやそんなひよろい男も連れながらじゃあ尚更

……。

スーラジ

カシユ一 だが俺がいれば全てがうまくいく、いつだって勝負はここからだ、やってやるさ

スーラジ ありがとう

カシユ一 気張れよ、リリユ一、けどまあまかせとけ、あの日本人にも一泡吹かせてやる

リリユ一 あの日本人？誰だろう？

スーラジ 君を追ってきた日本人と一悶着あったんだ

カシユ一 かならず成功させてやる、まずはロープを門の上に通して（ゴニヨゴニヨ）

スーラジ とにかく荷物をまとめていつでも出れる形にしておいてくれるか

リリユ一 わかりました

スーラジ また詳細を直接伝えに来る、それまでこれで連絡を取ろう

リリユ一 はい

スーラジ じゃあ、またあとで

・数年前、凧弓組織加入前

回想1（資料に目を通して）

人想研本部にて

榎川　　にわかには信じがたい、能力を2つも持つなんて

榎俵　　ただ、我々が今まで発見できていなかっただけで、そ

ういう人間がいないという確証もないんだ

榎川　　ですが……

榎俵　　これはまたとないチャンスだ、我々が回収できずに敵

側に渡って悪用されたらかなりの被害が出るよ

……。

榎俵　　幸い、その医者に詳しい方と知り合うこともできた

榎川　　誰ですか？

榎俵　　大興寺家の御息女だ

榎川　　あの医者なの？

榎俵　　知ってるの？

榎川　　昔、妻がお世話に、主に診ていただいたのはお父様で

すが

榎俵　　ああ、そうか、そうだったね

榎川　　どんな病でも治す力、ですか

榎俵　　気になるかい？もしもつと前に保護できていたらと

……。

榎俵　　すまない、汚いやり方だったね、申し訳ない

榎川　　いえ、榎俵さんがそこまでいうことがどうい

うことか私だってわかっていますから

榎俵　　私も映像を見たがなかなか凄まじいよ、悪用された

ら人を殺すなど容易なんて話じゃない、文字どおりの

悪魔に成り下がる

榎川 もし安全に保護できて、いい方向に導くことができた

ら

棧俵 それは多くの人間を医療で救えるだろうね

棧俵 頼めるかい？これは君に頼みたい案件だ、だって黒柄

くんに頼んだら皆な斬っちゃうからさ

榎川 わかりました、持てる力を尽くします、まあ話を聞いてみてですが

・数年前、凧弓組織加入後

回想2（凧弓の病室にて、資料に目を通してている）

榎川 想定外でしたね、これは

凧弓 ええ、まさか資金と経験のために彼が組織の敵に与ってしまったていたとは、あの生真面目バカ……

榎川 彼は知らずにやっていますからね、意図せず与してしまっている、いわば被害者でもあります、そして動機は全てあなたのためでしょう

凧弓 でももはや立派な加害者ですよ、これじゃあ、どうしたものか（ゴホゴホ）

榎川 盲点でした、左遷先を隠蔽しながらもこんなに早く彼に接触を許してしまったことは組織として反省すべきところですよ

……。

榎川 人類はいつ何時、何があるかと歩みを止めてはならない、私の好きなひ……文章の一つです

凧弓 やめてくださいよ、恥ずかしい（笑い）

榎川 その観点から、データを見る限り経験の機会としてはこれ以上の場はないでしょうね、まあ必ず生き延びた

いと、悪人が裏から依頼しているわけですから、特殊なケースばかり、そしてこの特殊なケース達が論文にかなり影響を及ぼしています

梶川 だからこそこの状況の打開策ではなく、応用、発展、大きな利益を考えたい

凧弓 そんなうまい話ありますか？

梶川 この問題を彼だけのものではなく、我々組織への利益も加味する部分を拡大解釈して、治療対象を治療後一週間以内に僕が必ず抹殺します、そしてこの第十七ブロック毎滅ぼす

凧弓 そんなことできるんですか？

梶川 すぐに上に報告し、私の持つ独立権限を発動して、この任務を個人間特殊任務に移行してしまえば、私は今より自由に動けます

梶川 できるか否かではなく、やるんです、大義名分はいつだってこちらにある

凧弓 ありがとうございます、相変わらずかっこいいですね、梶川さん

梶川 私のこの提案は必ずしも成功を担保しているわけではないので、まだ評価には至らないですよ

凧弓 けど、私はその言葉で安心ができます、だから助かっています、無理はしないでくださいね

凧弓 私にできることがあればいつでもなんでも言うてください

梶川 ありがとうございます

(間)

檜川

私の母も難病で亡くなりました、当時はどうにか母が助かることを考えすぎて私はおかしくなっていたのを今でも思い出します

檜川

人間の生死というのは本当に影響力が強い、誰しも結局生に執着をしてしまう、もちろん逆らえないものは仕方ないですがもし助けられる命ならどうにか助かってほしい、その奇跡に等しい技術が生まれるかの可能性が少しでもあるならと私も全力で力を貸したい、だからあなたの大義に賛同し、あなたに協力をするんです、もちろん彼にも

凧弓

はい、わかってます、本当に檜川さんには感謝してますよ

檜川

ごほん、それでは私もそろそろ、あなたも身体を暖かくして頑張り過ぎないでくださいね

凧弓

はい、気をつけます

檜川

また報告に伺います、それでは

・祈りの間到着の二週間前

人想研本部、6階にて

巳柱 あ、檜川さんが本部にいるなんて珍しい、今度はどこに行くか決まってるんですか？

檜川 次は中東を経由して、インド、ネパール付近の西アジアの任務になっている

巳柱 また遠いですねえ、いーなー、特務ですか？

檜川 ああ、随分と長きにわたる任務がもう時期終わろうとしているんだ、まあだが最後のこれは休暇みたいなものでただただ人を煽る、だけ？

檜川 まあ後は現地の料理だけが楽しみでね

巳柱 またそう言ってバキバキに仕事してくるくせに、あ、インド、ネパールってことはあれですか！男檜川の最後の大失恋の！

檜川 君は確か転属届がでていたか、情報管理課は想像を絶する激務だと聞くがそこまで言うなら今すぐにでもすいませんすいませんすいません、失言でありました、お許しください、檜川国属管理官特別補佐長殿
無い頭で絞り出す謝罪ほど滑稽で無価値なものはないな、巳柱佳奈桐二級執行官殿、仕事に戻りなさい
はい！気をつけます！失礼いたします！

(にこっ)

巳柱 お土産、お願いしますね

檜川 転属？

巳柱 し、し失礼いたします！

数時間後

(深い深呼吸)

(シーン継続または別シーンでも可)

(バルコニーにて小さな花束を持っている榎川、そこに登場する棧

俵)

棧俵 先日の任務、お疲れ様でした、連日で大変だったでし

よう

榎川 いや、いつも通りですよ、むしろ芋蔓式なんで調査が

省けて狙いやすく助かりました

棧俵 さすが榎川くんだな、君が直々に出張る任務は珍しい

けど流石にスムーズ過ぎて恐れ入ったよ、任務の移行
を許可した甲斐があった

榎川 謙遜はいいですよ

謙遜なんかじゃないさ、君のおかげでまた多くの人々
の命も組織の秩序も守られる、心からの敬意だよ

……。

榎川 彼女との約束は果たせそうかい？

棧俵 はい、このまま何事もなければ

では第十七ブロックは、じき陥落という形でいいです
か？

榎川 よっほどいいかと、次の西アジアの任務で全てケリが

つきます、悪魔の腕及び神の眼の回収準備をよろしく
お願いします

棧俵 うん、その手筈は盤石に整ってるから安心してくだ

さい

榎川 助かります

(間)

棧俵 彼に榎川くんの今までの行動は説明しなくていいのか

い？

榎川 必要ありません、あくまで仕事ですし私は元来そうい

うのは苦手なので、必ず全ての情報を伏せるよう執行
官一同に周知をお願いします

棧俵 わかりました、徹底させます、相変わらずかっこいい

ね

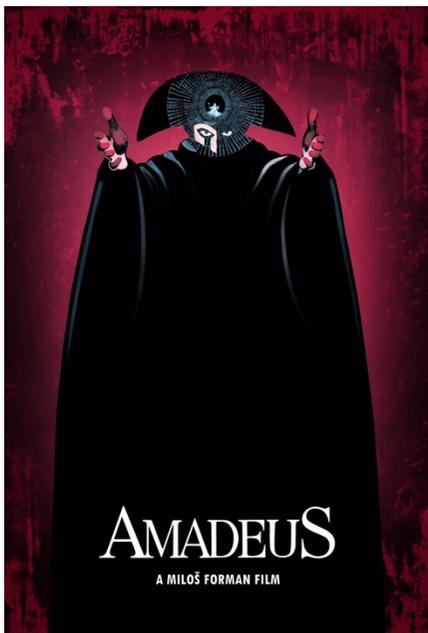
榎川 では、行くところがありますので、これで

棧俵 ああ、お墓参り？

(手で合図する)

(ふふっ)

(風が吹く)



「星の導き手」 第4章
新約聖書 マルコによる福音書第五章九節、ルカによる福音書第八
章三十節に登場する悪霊の名。
「主が、『おまえの名は何か』とお尋ねになるとそれは答えた。
『我が名はレギオン。我々は、大勢であるがゆえに』」
以下、参考画像

開祖 アポストル

使徒の意味もある

使徒 デイサイプル

弟子、使徒、門弟、亜流、教え子、門下生

この世ならざる物 ストレンジャー

レギオン No.3

ガニメデイウス・カッサンチック ガニメデ

ヒスペリオ・アランツール

ウエルビニエス・ルーパース

ガル・エトテ

アマルテイン・デサンテス

テミストネル・ポルカレロ・バレットウードー

隣人愛 Neighbor love

ネイロヴ ネイバロベ

隣人悪 Neighbor evil

ネイヴィル ネイバヴィレ

李・龍流 リー・ロンルー

ウイリアム・トルエン

ジヨナサン・カスケード

銀河の祭壇 アガーシユカン・ガアヴィーデー

ウルフラム・ポインタール || タングステン の針

別作品 「Grande incontro」 あらすじ、及び概要

Grande incontro イタリア語で大会議、大きな出会いの意

ある日、この地球に突如として飛来した異性人は自身を「ネイヴァアロヴェ」と名乗り、「ウオイ」に呼ばれたから来たと話したという。飛来したおおよそオーストラリア大陸の半分ほど大きな巨大な母船は太平洋の真ん中に静かに鎮座した。

「この地球にとって不要なクニを一つ葬り去る、その選定に7日を要するので、今からその作業に取り掛かる」、そう世界に言い放った「ネイヴァアロヴェ」は世界中を圧倒的な科学力で巡りはじめた。各国の首脳は大慌てで対応に迫られ、アメリカは「ネイヴァアロヴェ」に対し友好的でありながら自国への科学技術の提供を画策、日本は立場を明確にできず、ただ真摯に持て成すことしかできず、ロシアと中国は敵対的で密かに両国で結託し軍事配備を行うなど、各国特有の対応を見せた。そして迎えた裁定の日に各国は母船の中にある巨大な円卓に案内された。数メートルほどの門をくぐり、巨大な円卓の席に座っていく、だが呼ばれた全員が席についていても円卓にはまだ空席があった。それを不思議に思ったその時、大きな足音ともに角の生えた毛むくじゃらの大男や槍を携えた魚人、見たこともない正装をめかし込む鳥など、その場の誰も見たこともない生き物たちが次々と円卓を埋めた。そして「ネイヴァアロヴェ」の代表が現れ、話し始める。

「この地球に必要なクニは人間のクニと決まりました、なので地球から人間を排除します、人類の皆様、どうもお疲れ様でした、サヨウナラ」

その瞬間、人類は地球から跡形もなく消え去った。

以下、出典者不明録音記録ⅡⅡⅡⅡ

と、まあ、この滅亡の未来を防ぐためにお力をお借りしたいんです
にわかには信じがたい、近い未来に人類が滅びるなんて
もちろん、その感想が正常かと

こんな未来も実際、仕方がないのかもしれないね

無思考な絶望とかやめてくださいよ

ははは、冗談だよ、冗談、でもこの話には続きがあるんですよ？

はい、この人類滅亡のシナリオの裏にもう一つ、我々と敵対する存

在をこの地球から根絶するために一緒に戦っていただ

きたい

一緒に戦う？

ええ。レギオンという名をご存知ですか？

レギオン……、新約聖書のあのレギオンですか？

はい、まあ、あれはただの呼称ではありますが、彼らは人間の「ネ

ガ」を資源利用する存在でして我々と長きに渡る戦い

を続けています

それはあなた方ネイロヴが人間の「ポジ」を資源利用する存在だか

ら敵対しているんですか？

それもありません、ですが理由は様々です、宇宙にも政治があります

宇宙も大変なんですねぇ、それでそれらと我々が、戦う？

我々は性質が近い存在だからか、彼らに決定打を打つことができな

いのです

人間にはそれができると？

はい、新約聖書にある通りに

憑依先を変えて溺死させたくんだりか

よくご存知で、そんな彼らは最後に人類を星ごと喰らいます

星を、喰う？ 滅ぼすということですか？

はい、最後には星ごとあなた方人類を、滅ぼすんです

ネイヴイル

地球外生命存在であり、生物の負の感情（ネガ）を糧に生きる存

在。別名を「レギオン」ともいう。数々の星に入り込み、その星の生き物に力を貸し、社会ごと陥落させ、最後には星ごと蝕みつくし、資源価値がなくなったらまた違う星への移動を繰り返す。ネイロヴとは対になる存在とも言われている、ネイロヴはそれを不名誉に思っているらしい。

ネイロヴ

地球外生命存在であり、生物の正の感情（ポジ）を糧に生きる存

在。多くの星を救う救世主的な立場であることが多いが、星を救ったその先にあるのは必ず緩やかな文明崩壊、芸術の衰退であることを憂いてきた。それは結局ネイロヴの存在に必要な資源（ポジ）を回収できない状況に陥ってしまうからである。そんな中で地球を発見し、その有用性、資源的価値から地球人に協力し、保護する立場をとっている。

「崇高なる最大利益追求、鈍色の大きな星」

リー 3人は出発しました、門番や一族の長である老婆と結託し、門の上を滑車で乗り越えていったようです

ガニ 榎川さんは？

リー まだ食事をしています

ガニ 全て、全て、分かった上、なんですね

リー 果たしてそうでしょうか？

ガニ 人間の狡猾さを舐めては、いけないですよ、何もかも、何もかも全て仕組まれたこと、強制送還など以外の外、ドクターが祭壇に行かざるを得ない状況を「彼」が長き、長き時間の果てに作り出したのです、作り出したのです

リー 銀鼠の針、血濡れの榎川ですか

ガニ ああ、ああ、その名は本当の彼をよく表したものです、複数ある彼の呼び名の中でも好きなものの一つだここに至るまでに彼によって多くの仲間を失いました仲間、仲間、仲間、あなた方人間の悪い癖だ、すぐに簡易的な繋がりを渴望し、そこに無意味な安堵と異常な執着を要求する

リー 失言でした

ガニ いや、いや、いいんですよ、いいんですよ、それでこそ人間、それでこそ、人間です、魅力であり、弱点、滑稽で慰み物、仲間など、またすぐに語ればいい

リー (一礼)

ガニ 犠牲なくして成果などありませんからね、なので我々の手筈も順調だということです、彼ら3人が祭壇にたどり着き、ドクターの失った女性との再会が果たされ

た後にドクターの回収と参りましょう、これが正しいのです、正しいのです

リ― 獲物は大きくしてからということですね

ガニ はい、はい、貴重な機会ですからね、たとえ全て謀られていても最後に勝つのは必ず我々です、あ
あ、ああ、ありがたいことだ、ありがたいことだ

(連絡を受け取る)

リ― こちらの斥候も先ほど向かいました

ガニ では、では、我々も狩りに出かけましょう、出かけましょう

(一礼)

後約不俗邪書 第二章一節

Ⅱ 大いなるものの音を聞け、大いなる師の声を聞け、それは常にそこかしこで語られている。

それは救いではなく、耀かしき涙の軌跡であり、多くが沈み、だが広がっていくそれを心から慈しみ、常に憎しみを握りなさい。

星々の血と熱、線と円、限りなく伸びる手足で深く忍び寄る。

いと高き神々よ、どうかかまわないでくれ。

罪深き果てのない後生である故、優しく苦しめないでほしい。

おまえの名は何か、我が名はレギオン。

我々は、大勢であるがゆえに。Ⅱ

「雪を踏む声、与えられる権利」

リリユウ 追手は、来てないみたいですね

スーラジ 多くの人間が協力してくれた、気は抜けないが今のうちにはできる限り進んでおこう

リリユウ はい！

カシユウ 出し抜いたな、あの日本人を

カシユウ どうせ今でも飯食ってんだよあいつは、ずっとなんか食ってんだ、けっ！ してやったりい！

リリユウ あはは

(さむさむ)

スーラジ 時期に夜明けが来たら少し暖かくなる

(うんうん)

(歩きながら景色を見て、思わず立ちつくす)

リリユウ 綺麗ですね、そんなことを考えてる場合じゃ無いのはわかってますが、綺麗です

スーラジ 自然はたとえどんな時でも美しさを提供してくれる、そして人間はいつだってそれを受け取っていい、人間にはそれを受け取る権利がある

カシユウ 全くもって同意だが、つくづく傲慢な生き物だな、人

間は

リリユウ ほんとですね、人間の尊さと醜さを、思い知ります

スーラジ ……さあ、行こう

(出発する)

リリユウ もし追手が来たらどうしましょう

カシユウ 戦う

リリユウ 戦う！？

カシユウ 戦う

リリユウ 戦う？

スーラジ 戦う

リリユウ 戦う……

スーラジ 君に戦闘を強いるようなことはしないから安心してくれ

カシユウ 星の導き手には戦う強さも必要なんだよ

リリユウ けど何と戦うんですか？

スーラジ 相手は様々だが、たとえば我々はいわゆるその死者と再会できる場所を「銀河の祭壇」と呼んでいるんだが、誰もがそこに行きたがる

カシユウ そんな俺たちを山中で脅しにくる人間もいるんだ、案内しろってね、正規の手続きを踏まずにそういうことしちゃう奴らが案外いるんだよ、そういうやつはさ、ぶっ飛ばさないと、脅されちゃあね、ね？

リリユウ まあ、そうですね、あはは

スーラジ 何かと物騒ではあるんだよ、この仕事は

カシユウ だから戦えないといけないってこと

リリユウ そうなんですね

スーラジ もうすぐ山小屋だ、やるべきことがあるから寄ろう

(到着、室内へ)

「かつて働き願いを携えてここへ」

・門付近、榎川板付、ソルデオ上手より

ソルデオ 行くのかい？

榎川 ああ、どうも

榎川 そうですね、もう時期出発します、彼らもそれなりに進んだところでしよう

(もぐもぐ)

ソルデオ あいつたちは腕がいいからね

榎川 それにしても名演技でしたね、承認不可のくだりは迫真でした

(もぐもぐ)

ソルデオ 老人を馬鹿にして楽しいかい？

榎川 いやいや、本当に感謝しています、何から何まで大変お世話になりました、いつも助かってます

ソルデオ ふんっ、あんたは本当に毎回厄介ごとを持ってくるね、あんたが昔、死んだ嫁に会いたいと言ってきた時にやっぱり山に埋めるべきだったね

榎川 懐かしいなあ、あの時の自分がいてこそ今の自分がここにあります、ソルさんには感謝感激雨あられですよ
老人を馬鹿にして楽しいかい？

榎川 今後とも人想研をどうぞよろしくお願いいたします

(ニコニコ)

ソルデオ ふんっ！

榎川 報酬はいつもより弾みますので

ソルデオ ふうん

(もぐもぐ)

ソルデオ 道は大丈夫かい？

榎川 なんだかんだで何回か通ってますからね、抜け道も全

て覚えています

ソルデオ 遭難しても助けないよ

（へへ、の表情、お互いニヤリ）

ソルデオ もう、いるんだらう？

榎川 ええ、街の中には必ず、目視こそまだですが反応は確認できています

ソルデオ 気味が悪いね、この世ならざるもの、最古の呼び名はレギオンと聞いたかい？

榎川 ええ、様々な呼び名があると報告されていますが、その名は人類との初めての接触の時に名乗ったと言われているものです、今でもその名を使うものもいるようです

ソルデオ ああ、この街にこれ以上の争いが無いようお願いしたいね
（すりすり）

ソルデオ あいつたちのこと、頼んだよ

榎川 心配いらないですよ、でも、責任を持って守らせていただきます、それではそろそろ

「面々と続く祈り、継承、願いと深き守護霊」

・ 山小屋、祭壇

リリユー　ふうー、室内なだけでやっぱり暖かいですね

スーラジ　ここで少し食事もとってしまおう、先はまだ長い

(リリユー、室内を見渡す、まあまあ広い)

(カシユー、炉に火を起こす)

(スーラジ、儀式の準備をする)

リリユー　言っていたやるべきことってなんですか？

スーラジ　ちょっととした儀式さ、この場所に歴代の星の導き手や

旅を達成した人、残念ながら道半ばに撤退した人、遭

難者、この四霊峰に関係する人々が皆祀られている、

そこに祈りを捧げるんだ

リリユー　(感心の) はああ

カシユー　星の導き手は必ずここで祈りを捧げてから、この先に

進むのが決まりなんだ

リリユー　そうなんです

リリユー　歴代の星の導き手、道半ばの人、登山を達成した人、

か

カシユー　どんな理由であれドウバーラの登山に失敗する人間は

大半が山々に感謝を持たない奴、感謝を捧げなかった

奴だ、舐めちゃいけないだよ自然を

(飲み物を渡す)

リリユー　ありがとうございます

(温かい、ほっ)

(スーラジの分も用意する)

カシユー　人間は目に見えないものを軽んじる傾向にあるが、そ

ういう人間は目に見えるものも軽視する傾向にあると

俺は思っている

カシユー 心や精神も一緒に目には見えなくてもそれはそこにある、そこにあると自身で正しく認識、理解することが大切なことだ

リリユー そこにあるであろうそれを、信じる

スーラジ それを信じる自分を、自分が信じること

カシユー それが信仰の始まりさ

リリユー 信仰……

カシユー そう人間が救われる、そういう人間こそ救われる、そこに宗教の有無は関係ない

スーラジ そろそろ始めよう、リリユーは適当に座ってていいから

リリユー 見ててもいいですか

スーラジ もちろん

(儀式を始める、祈りを捧げる、火が揺れる)

スーラジ 大いなる四霊峰の神々よ、あるのは底のない畏怖と深き感謝、我らが祈る、それらを聞き届けたまえ

(途中、内容未定)

カシユー 欲深き我々をどうか広く護りたまえ

(儀式終わり、火が静かになる)

スーラジ さあ、食事にしよう

(食事を用意する、皆食べる)

回想 「世界はあなた、あなたは私、私は世界」

・病室にて、凧弓、人想研活動休止中、療養期間中、逝去1週間前

凧弓 あなたは人類がこのまま生きていつていいと思う？

龍理 なんだよ急に物騒だな

凧弓 いいから、どうなの？

龍理 急にはわからないよ、そんなこと

凧弓 はっきりしないね、情けない

龍理 ……。

凧弓 私はね、滅んじやえばいいと思うの、この世界

龍理 ……。

凧弓 あまりにも混沌としすぎたこの世界に意味を見出せない、そもそも見出す必要があるのか、なぜこの世に平和が訪れないのか

龍理 傲慢じゃない？

凧弓 そう、まさしくそれ

凧弓 悲観的観測というのは必ずと言っていいほど利己的な思考から生まれる、脈々と受け継がれてきた奇跡を無意識に享受しながらも、それを平気で無下にする

凧弓 そんな人が、幸せになんかなれるわけない

龍理 今の自分がそれだって？

凧弓 昔からそう、今だけじゃなく

龍理 ……。

龍理 でも皆人間なんてそういうもんだろ？そこから如何に脱しようとするかにその人間の真価が問われている

龍理 世界に生きる価値がないのではなく、世界に生きる価値を見出せるか否かに勝負がかかっている、その戦いを人は美しいと呼ぶ

龍理 弓さんはそれができている、だから大丈夫

偉そうに

凧

君の前でくらいカッコつけた人間でありたいんだよ

龍理

はああ、ならもう少し手術丁寧にやってよ、映像だと
分かりにくいところが多すぎるんだけど、論文に起
す身にもなってよね、後輩たちが可哀想

凧

あっはっは、それは申し訳ない、僕天才だからさ

龍理

傲慢ね

凧

もう少しだからね、君がこの世界に絶望を感じるの
ではなく、希望しか感じない素晴らしい世界に僕がする
からさ

龍理

凶に乗りすぎ、もしできなかったらぶっとばすから

凧

必ず

龍理

私を助けるってことは、世界を助けるってことだから

凧

傲慢だね

龍理

やかましい

凧

途中で諦めるとか許さないから、それくらいの気概を
忘れるなって話

凧

はい、肝に銘じておきます

龍理

「目に見えぬ多くの愛に包まれて」

(山小屋にて食事中)

リリユ一 いつから知っていたんですか？

スーラジ ん？

リリユ一 僕のこと

スーラジ ああ、2年前くらいかな、明奈経由で凧弓さんを紹介されて、文通を続けて事の内容を知ったんだ

リリユ一 何も知りませんでした

スーラジ これは彼女の一世一代の壮大な計画なんだよ、君の到着時期なども全て、おおよそ当たっている

リリユ一 僕のこととはなんか言っていましたか？

スーラジ もちろん、僕のクライアントになる人の情報だから

カシユ一 ね、事細かく教えてくれたよ

リリユ一 おお、聞きたいねえ、それ！

スーラジ いや、その、なんか恥ずかしい！

スーラジ 詳しくはこの旅が終わってからにしよう、我々にはやるべきことがある

(うなずき)

カシユ一 ちえー、つまんないのー

(もぐもぐ)

スーラジ 不安かい？

リリユ一 いや……、ええつと……、はい

スーラジ 一つ言えることは、彼女が君のことを如何に愛していたかというのは文面からひしひしと伝わってきた

リリユ一 ……。

カシユ一 本当に大事なのはお前さんが何を思うかではなく、お前さんが彼女に何を、伝えるかだろ？

リリユ一 そう、ですよね

カシユー 「赦してくれるか、と」、とか言ってる場合じゃない

んじゃないかあ？ ああ？

リリユー いや、その

カシユー お前にだって様々な事情があるのはわかってるさ、多くの許されない罪を犯してきたんだろう、ただな、俺はこの登山を個人の贖罪だけになんかしてほしくはないよ、この霊峰も、銀河の祭壇もお前を慰めるために存在してるんじゃない、この山小屋だって、登山道だって、何もかも全て、脈々と多くの人間が奇跡的にってきたんだ、だからお前さんはここにいられる、この旅路はそう簡単なものではない、選ばれた人間しかこの旅路を迎えることはできないんだ

リリユー はい、肝に銘じます、ありがとうございます、カシユーさん

スーラジ 君が思っている以上に君は様々な人間から愛されているのかもしれないね、なあカシユー？
早く食べちまえよ二人とも、冷めるぞ

リリユー はい

(もぐもぐ、涙目かっくらい)

スーラジ ここらの登山はさらに厳しくなる、食べ終わったら準備はしっかりして挑もう

カシユー おう！

リリユー はい！

「星の導き手」 最終章

セレブラルライブラ 知性の図書館、大脳の図書館

ダハーヴォーヌング 屋根裏部屋

タペーテンテューア 隠しドア

夜明けの開拓者、心身の開拓者

悲しみ、静寂の青、太陽、明るさの黄色、祈り、浄化の白

この世全ての記憶の観測者

時計 トキシン 注射器に似た特殊器具

針が刺さっている部分半径30cm部分の時間の流れを最大で7

日間止めることができる特殊器具、戦場医療に使われる場合が多い、開発は帝釈仙技術開発部1課、3課共同によるもの

長地道乃 ながちみちの 時量道乃

魔女、因果の魔女

立花 些々利 たちばなささり

boundary バウンダリー 境界

バウンダリーペリメータートレイン

boundary perimeter train BPT

バウンダリーペリメーターライナー

boundary perimeter liner BPL

Bless you for loving many, not just one.

たった一つではなく、多くを愛することに祝福を。

「大いなる出会いの数々、本当の試練の始まり」

(坂を登ってくる)

リリユウ ここが

スーラジ ああ、そうだ

カシユウ ようこそ、銀河の祭壇へ

(お堂の中に入っていき、祭壇の前)

(準備をする)

スーラジ さあ、はじめようか

リリユウ はい

(リリユウ、祭壇前の大きな方陣の中心に行く)

スーラジ 深呼吸をして、リラックスをするんだ

カシユウ 身体力を徐々に抜いて、空間に溶けていくような想像
をするんだ

スーラジ 君が今から行く場所はこの世ならざる場所はこちらの現
実は時間の流れが大きく違うのを忘れないでくれ

リリユウ はい

カシユウ 向こうでは決して慌てるな、たとえどんな場所にたどり

着いて抗わず、自然体でいることを心がけてな

リリユウ はい

(深呼吸)

カシユウ ようやくか、長かったなあ、なんか

スーラジ うん、ようやくだな、リリユウさん

リリユウ 本当にありがとうございます

スーラジ ああ、しっかり伝えるんだよ

リリユウ はい

(目を瞑ったまま、にまり)

スーラジ では、良い旅を

(スーラジと夢に消えていく)

(モヤがかかっている)

(段々モヤが晴れていくが、晴れ切りはしない)

(気づくとそこは大きな駅だった。)

「時期外れの月、太陽」

(大きな駅のホーム、見知らぬ日もここは多くの人が行き交う)

(ぶつかる)

リリユー あ、すいません

(ぶつかる)

リリユー おっとと

(しばらく歩いて、ホームのベンチに座る)

(女性が走ってきて隣に座る)

(リリユー、ボケ、ん？ 手に切符を握っている)

リリユー え？

女性 え？

リリユー ああ、すいません

女性 何かお困りですか？どこか行かれるんですか？

リリユー ああつと、ええつと

女性 大丈夫ですか？

(怪訝)

リリユー はい、けど自分がどこから来たのかわからなくて

女性 それは大変！ ではお姉さんが悩める男子を助けてあ

げましょう！って、そんなに歳は変わらなそう

リリユー いや、僕の方が年上かも？

女性 え、まじ、ほんとに？なんか、恥ずかしい

(手元をのぞく)

女性 青い切符！珍しい色ですね、私は黄色、さっき白色の

人を見たんです、白はすごく珍しいんですよ！

リリユー 切符の色に興味があるんですか？ そもそもここは駅
であってますか？

女性 本当に何も知らないんですね、ここはバウンダリーセ
ントラル

女性 様々な世界と世界を繋ぐ境界の中心にあるとっても大
きな駅なんです、この駅からいろんな場所に行くこと
ができて……

リリユー は……はあ、ちよつと、理解が追いつかない

女性 あはは、私の説明が下手だったかな、まあとにかく
様々な世界と世界を繋ぐ、繋ぎめ？的なの？

(相槌)

女性 お名前は？

リリユー 思い出せません

女性 ほんとに困ったね(驚き)

女性 あなたはなんでここに来たんだろう？

リリユー なんでなんでしよう、何か理由があったような

女性 思い出せない？

リリユー はい、どこかはつきりしないような

(間)

リリユー あなたはどこかに行かれるんですか？

女性 私は転職しようと思って、この世界を出るの、転職先
も行き先も何も決めてないんだけどね

リリユー そうでしたか、けど新たな門出はおめでたいですね
ありがとうございます

女性 あなたがここに来た意味も必ずあるはず、少し忘れて

しまっているだけで心の中にはきつとある

リリユウ　　そういうもんでしょうか？

女性　　そういうもんよ、私とのこの出会いにもね、私にはわかるの

女性　　似たような経験があつてね、その意味というのは必ずしも自分にだけ影響があるわけではなく相手にも大きな影響を与えたりする、だから面白いし、だから美しい

女性　　だからきつとあなたもそう、当たり前じゃない、何事にも必ず意味がある、たとえあなたにとって辛いことだとしても、必ずそこに意味はある、そしてその先に希望が必ずある

女性　　その方がいいでしょう？

リリユウ　　はい、そうですね

（青い電車が到着する）

女性　　あ、来た来た、あなたが乗る電車

リリユウ　　理由もわからず、乗っていいんでしょうか、怖いんです

女性　　乗れば思い出すよ、きつと、だから大丈夫、怖くないよ

（足元じりり）

女性　　私が背中押してあげる

リリユウ　　優しいですね

女性　　私、優しいお姉ちゃんと面倒くさい弟を持つ立派なお姉さんだから

（プシュー）

（リリユウが乗る、扉が閉まる、急に何かを思い出す）

（電車がゆっくり走り出す、窓を開ける）

リリユー 思い出しました！ 僕は、僕の一番大切な人に、会いに来たんです！

女性 そっか！ 会えるよ、きっと、たとえすぐには会えなくても、必ず！ 怖くてもあなたが電車に乗るという一歩を出したから思い出せた！ だからあなたの世界が動いたんだよ！

リリユー はい！ ありがとうございます！ あ、あなたの名前前は？

鈴子 鈴子！ 孟蘭田鈴子！

リリユー 鈴子さん！ ありがとうございます！ さようなら！ ありがとう！ ありがとう！

(電車が走り去る、笑顔で見送る鈴子)

「木星の使徒、襲来」

(祭壇内、入り口付近)

ガニ ほお、ここが、かの有名な、かの有名な銀河の祭壇ですか

スーラジ 何者だ

パンツ！

(スーラジがすかさず発砲)

ガニ おおっと、物騒ですね、かの星の導き手ともあろう者が相手の確認もせず発砲とは

カシユー この祭壇に我々星の導き手以外の部外者の侵入には無条件発砲が認められている

ガニ もっと中をじっくり見たいですが、ドクターの邪魔をしてもいけない、邪魔をしてはいけない、外に出ましよう、あなたがたもどうぞ

(ガニ、リー、退室する)

カシユー なにもんだよ、あいつ？ リリユーを知ってるのか？

スーラジ わからない、異様な空気を纏っている

カシユー まさか、ソルデオが前に言ってた

スーラジ レギオンか

スーラジ 追おう

(スーラジ、カシユー、外に出る)

(お堂の前、広場)

ガニ お初にお目にかかります、我が名はレギオン、大勢で

あるが故に

カシユー くそつ、ビンゴかよ

スーラジ 厄介なことになったな

ガニ ふふふ、人間らしい良い反応だ

ガニ ただ我々はあなた方に用事があるわけではなく、祭壇にいらっしやるかのドクターに用事がありまして、ありまして

カシユー 変なやつばっかに人気だな、あいつ

スーラジ 彼にどんな用事が？

ガニ 実は日本では一緒に仕事をした仲です、ドクターとお話をさせていただければわかっていただけははずです
スーラジ それは認められない、今の彼は我々のクライアント

だ、勝手な事は許されない

ガニ そうですか、そうですか、ではあなた方がいなくなれば話は早いということですね、ドクターの目覚めを待つだけで良くなる、待つだけで良くなる

(カシユー、ナイフを抜く)

ガニ いざ、いざ、シターラ・マールグダルシヤクに榮譽の死を、死を

(ガニ、手元から針状の流体金属を出し、スーラジにむけて発射する、スーラジは拳銃で応戦、それを全て撃ち落とす)

(リー、手甲による格闘でカシユーに襲いかかる)
(激しい戦闘)

外伝、及び閑話休題 「知られざる鐘の音の先」

波の音がする。

決して振り返らない自分をきつといつかみんなは褒めてくれる、そ

んなことを考えながらひたすら歩いた。

どンドン遠くなっていく。

みんなの声、波の音、風の音、気づけば辺りには見慣れたあの世の

景色が広がっており、その先には優しい笑顔で佇む親

友が門の前に立っていた。

おかえり、よく帰ってきた、えらいね

そう声をかけた些々利は鈴子を強く抱きしめた。

ただいま、行ってよかったよ、現世に

そっか、ならよかった、無事で何よりだよ

多くは語らずともお互いには伝わる何かがあった。

歩き出す2人の背中を優しい光が押していく。

けどそれはもう二度とその立場では現世には戻れないことも示唆し

ていた。

それを2人が知る由もなく、尽きぬ思い出話を楽しそうに話す鈴子

とその姿に安堵する些々利。

彼女がもし帰って来なかったらなんてことを考えていた自分が少し

馬鹿みたいで鈴子の話に関係なく嬉し笑いが止まらな

かった。

鈴子　　そういえばね、私決めたことがあるの

些々利 ん、なに？

鈴子 仕事やめる！

些々利 へえ……え！？なんで？

鈴子 私、思ったの、自分のちっぽけさとかさ、世界は本当はもっと広くて知らないこともたくさんある、だからもっともつといろいろな世界を見てみたい、知りた
いって

些々利 えええ、そんな、なんでまた急に……

鈴子 たとえどんな場所にしても家族に恥じない立派な人になり
たい！

鈴子 思ったら即行動！ってやつ？

些々利 はああ、困った子だ、この子は新しい就職先も決めず
に

鈴子 何事もやってみなきゃわからないからさ、いろいろ調
べてみなきゃ

些々利 はああ、困った子と友達になってしまったあ

鈴子 まずはここから離れなくちゃ、新しい自分に会いに行
くんだ！

(走っていってしまおう)

些々利 けどこういう勢いでやっちゃうのが鈴子の魅力かあ、
私も転職しようかな、なんかいいご縁の場所ないかな

(数日後、バウンダリーセントラルにてpplを待つ鈴子)

(ホームは大きく白んでいて、多くの人が行き交う)

(駅のホーム内のベンチに鈴子、そこに通りかかる男性)

鈴子 大荷物ですね、手伝いましょうか

男性 ああ、すいません、ありがとうございます

(よいしょ、よいしょ)

男性 どこか行かれるんですか？

鈴子 少し遠くまで？ けど切符黄色なんですよね

男性 ふむ、ならそこまで遠くへはいけませんね

鈴子 えへ

鈴子 お兄さんはどちらまで？ 切符は何色なんですか？

男性 これです

(ものすごく長く連なった白い切符)

鈴子 白！ 初めてみました！

男性 珍しいでしょう、お、きましたね

(白い列車がホームに入ってくる、ドアが開く)

男性 それでは、またお会いしましょう、星の巫女さん

鈴子 ？

(白い電車が出る)

鈴子 不思議な人だったな、あ、やっぱ、私のホームここじゃ

ないじゃん(走っていく)

「ヒーローは遅れてやってくる」

(苦戦を強いられるスーラジとカシユ)

スーラジ はあ、はあ

カシユ くそがよ、なんだこのタフさは

リー お褒めいただき光栄だな

カシユ 褒めてねえよ、バカ筋肉チビ

シュツ、バシツ

カシユ うぐう

ガニ どうです？ もう、終わりにしては？ あなた方はよ

く戦った、もう充分です

ガニ 穏やかにドクターを渡しなさい、渡しなさい

ダンッ！

(急な発砲音、ガニの体に直撃する)

ガニ　　ふふふ、待ってましたよ、榎川さん

スーラジ　なにっ？

(物陰から榎川が歩いてくる)

カシユー　あいつ……うるせえ日本人か！　どうやってここまで

来た！

榎川　　久しいな、ガニメデイウス

(リーが睨みつける)

(リーに向かって、特殊な弾丸を撃つ、命中し電流が流れ、リー倒

れ込む)

リー　　ぐ、き、貴様……

榎川　　震えているな、寒いのか？　なら下っ端は静かにして

いなさい

(リーを見ながら通り過ぎる)

榎川　　半年前の新宿以来かな

ガニ　　いやいや、本当ですね、最後に戦った時は「魔法使

い」とあなたと黒柄さんが共闘した時ですか

ガニ　　あの時の傷は未だに私も痛みます、榎川さんの傷はど

うですか？

榎川　　まだ少し痛むさ、私のはより深かったからね

ガニ　　あれはいい戦いでした、私は引き分けが大好きなの

で、大好きなので

榎川　　挨拶はほどほどに、私が煩わしいのは好きではないの

を知っているだろう、早く名を名乗れ

スーラジ　　どういうことですか？

榎川　　彼らレギオンは自身の真の名を明かさないことによつ

て、特殊な異空間を身体のみわりに展開し、物理攻撃

のダメージを少なくすることができ、そして相手に

トドメを刺さされることを難しくするんです、ですがその代わりに自身の最大の力は発揮できなくなる

(にやり、にやり)

檜川　だが、真の名を名乗ることによって、最大の力を発揮できるようになる、だが次は防御に力を割けなくなるので我々の力でトドメを指すことが可能になる

ガニ　ええ、ええ、私は他のレギオンよりこのシステムを愛していましたね、私自身が認めた相手と戦う時は率先して名を名乗るようにしているんです、戦いは礼儀で成り立っていますからね

檜川　さあ、どうするんだ

ガニ　もちろん

ガニ　我が真の名はガニメデイウス・カツサンチック、ジュピターレギオン No. 3 である、参りましょう、いざ参りましょう、血濡れの檜川

檜川　くるぞ、とにかく攻撃をいなして、どこかに深い一撃を与えることに集中するんだ

(二人相槌)

(ガニが両手を広げると大量の水塊が混じった水が大量に溢れ出て 3人の元に流れ飛ぶ)

(3人、その攻撃を避けながらも各々の技で食らいついていく)

「この世全ての記憶の観測者、その名を〇〇〇〇ー〇〇」

(電車が少し走って、駅に着く)

(プシュー)

(男性が立っている)

男性 おお、本当に来た、あの子の言う通りだ

(ドアが開く、きよとん)

男性 ようこそ、まあ降りなよ

(降りる)

リリユー ここは？

男性 んんん、「この世の全ての生物の思考の先に存在する

と言われている共通思考大領域」とか言ってもわからないよな、メモリーオブバンク、セレブラルライブラとか、ダハー・ヴォーヌング、タペーテン・テューアも……まあそりゃまだわかんないよな

男性 まあ、少し歩こう

(ホームを歩き出す)

男性 こう言う場所は初めてかい？

リリユー はい、なんかふわふわしていて、変な感じです

男性 まあ初めての人はみんなそう言う、俺もそうだった、だが危ない場所ではない、むしろ安全な場所だ、怯えなくていい

(歩いていく)

男性 どうしてここに来たんだろうな、あんたは

リリユー 僕は、僕の一番大切な人に会いに来たんです

男性 そうか、そうだよな、でもいたのはおじさんだった、あっはっは

男性 前の駅では誰かに会ったかい？

リリユ一

女性に会いました、孟蘭田鈴子さんという明るい方

男性

に、この場所に慣れない自分に優しくしてくれました
孟蘭田、鈴子か、ああ、ああ、浦田、浦田の嬢ちゃん
か、後の星の巫女の一人だな、それはいい出会いだ

リリユ一

お知り合いですか？

男性

少しだけな、彼女強かったろ？ あれが「夜明けの開

拓者」の称号を持つ人間だ

リリユ一

「夜明けの開拓者」、不思議と元気をもらえるような明

るい人でした

男性

な、やべーんだ、あいつ

男性

だけどあんたの会いたい人ではないもんな、じゃああの
の出会いに意味はないんだろっかな

リリユ一

……。

男性

彼女があんたにくれた言葉たちに意味なんかなく、も
うその言葉は全て空気に溶けてどこにも存在してない
と思うかい？ 君は未来に起きるであろうの彼女の死
を悲しむこともなく、たとえ路傍の死体を見ても、何
も感じない？

リリユ一

いえ、そんなことは

男性

だよな、関わりが、繋がりが、言うなれば縁ができて
しまったらそこにはもう何かが存在する、存在してし
まう、誰だって大切な人ほど死んでほしくない、失い
たくない

男性

なのにあんたは大切な人ほど救えない、なぜだろうな

リリユ一

……。

男性

その人を失いたくない恐怖から、思うように力を発揮
できない？

リリユ一

……。

男性 では治療ができる人間達は失っても大丈夫？

リリユー ……。

男性 違うよな、同じ世界を生きる人間だ、等しく価値があり、等しく価値はない

男性 だがそこに何かがある、何かがある

男性 そう思わないか？

リリユー はい

男性 なんだと思う？

リリユー ……。

男性 なぜ彼女は死ぬ間際まで笑顔でいられたんだと思う？

男性 なぜ彼女はある人の悪に染まった行為を止めなかったと思う？

リリユー なぜ……

男性 そこに答えがあるんじゃないか

男性 失う自分、消えていく自分、その後に残るもの、残す者、残される者、あなたは何を意識するのが正しいんだろうな

リリユー ……。

男性 なぜ彼女はここに現れなかった

リリユー 弓さんは、凧弓さんはここにいますか？ 本当にここに？

男性 いるさ、ただ、まだらしい

リリユー まだ、って……

男性 愛されているんだよ、ははは

男性 さあ、いつまでも素人が現実世界以外の時間の流れに触れているのは危険だ、そろそろ戻ってもらおう

リリユー そんな、僕はまだ

男性 これでこの旅を終わりとするかはあんた次第だ

リリユー ……。

男性 幸いにもここは駅、駅は始まり、通過地点を意味する、ということは、だ

男性 これ以上は言わなくてもわかるな？

リリユー どうして、

男性 ?

リリユー どうしてあなたもこんなに僕のことを、

男性 俺にとって命以上に大切な友人の子供を取りあげてくれたのがあなたの両親でな、それはそれは急で無理なお願いだったのに二つ返事で了承してくれた、世話になったんだ、今でも本当に感謝している

(空間が縮小し始める)

男性 もちろんそれだけではない、あんたにだって何度も世話になった

リリユー え？

男性 あ、ああ、少し未来の話だ、今は気にしなくていい

リリユー ?

(空間がさらに縮小していく)

リリユー あなたのお名前は？

男性 寺場、

男性 寺場 維人っていうんだ

リリユー 寺場さん、僕は

寺場 戦え、誰のために？ 自分ではなく愛するもののために

リリユー 愛するものの、ために

寺場 世界はあなた、あなたは私、私は世界、だからな

寺場 がんばれよな、先生、あんたなら大丈夫だ

(空間がさらに縮小していく)

リリユール 寺場さんっ！ 僕はどうすれば！ 寺場さーんっ！

寺場 じゃあな、先生！ また少し先の未来で！

(ギュギュギュ、ググツ)

リリユール っは！

(現実世界に戻ってくる)

(振り返って、外を見る、音がする、走って外に出る)

「それは贖罪か、分岐点か」

(激しい戦闘が続く、決定打はまだ打てず、その時)

ガニ 気を、抜きましたね、ヴィナーシユカ・シャイターン
ドスツ

(ガニの腕から伸びた直径20cmほど金属がスーラジの腹部を貫いて
ている)

スーラジ ぐううう、がはああ

(大量の血を吐き出す)

檜川 しまった

カシユール スーラジッ！

ガニ 当然の結果です、当然の、結果です

(すかさず檜川がスーラジの腹部に注射のような器具を刺す)

スーラジ うう！

カシユール おい！なにしてんだ！

檜川 静かにしろ

ガニ 動かないでくださいね、檜川さん、たとえ時針を使っ
てもどちらにしろ私がこのまま捻れば、スーラジさん
の胴体は真っ二つにちぎれます

(リリユール到着)

リリユール ス、スーラジさん！！

(皆振り向く)

ガニ おおお、これはこれは、ドクター、大変お久しぶりで
す、少しお話をしたく直接、伺わせていただきました
リリユ一 だ、誰ですか？
ガニ おっと、この顔を見ればわかりますかな？

(ガニが自身の顔を変形させる)

リリユ一 あなたは！

ガニ わかつていただけたようで

ガニ 話は簡単です、ドクターが今すぐ我々と共に来ていた
だければ、スーラジ・アマン・マノイの命は助けまし
よう

スーラジ リリユ一さん、絶対にダメだ

リリユ一 でもスーラジさん！

スーラジ いいんだ、もういいんだよ、これは私の罪なんだ、多
くの罪を犯した、多くの人間を不幸にした私の当然の
報いなんだ

スーラジ だが君は生きなくてはならない、それが凧弓さんとの
約束なんだ

リリユ一 そんな……

スーラジ すまん、カシユ一、後を、何があっても必ず、リリユ
一さんを

カシユ一 バカ言え、てめえ、勝手に悲劇のヒロインぶってんじ
やねえぞ、生きなくちゃいけないと明奈に言われたん
だろうが！ その呪いを、彼女の願いをこんなところ
で無碍にする気か！

(スーラジ、意識が遠のいていく)

カシユ一 おいつ！ ふざけるな、スーラジ！ 絶対許さない
ぞ！

リリユール あああ、スーラジさん……スーラジさんっ

ガニ 決断なさい、その決断で救える尊い命が今、そこにある、医者として救える命を見過ごすことができますか、あなたに

(じりっ)

ガニ 榎川さん、そのあなたの無力を感じている心が何より素晴らしいんです

榎川 ……。

ガニ さあさあ、決断を、ドクター、決断を、決断を

(銀河の祭壇上空、削一族仕様高機動へり内にて)

操縦士 この距離で大丈夫ですか？ とても狙撃ができる環境ではないと思いますが

(スコープでのぞいている)

巳柱 大丈夫です、全然大丈夫！ そのままこの場所をできる限り維持してください！ 余裕でいけます、私は狙うんじゃなく、当たる結果を操る技なんです

(へりには削一族のエンブレム)

(上空にいるへりからの狙撃が、ガニの肩を2発直撃する)

バズッ！ バシユッ！

ガニ おっと、これは、これは危ない、危ない

巳柱 へっへーん、ほんと私ってスナイプだけは上手なのよ
ねーってさ、榎川さん、貸し一ですよ！

榎川 超長距離狙撃、巳柱くんか！

(スーラジに刺さった金属を咄嗟に榎川が切断する)

ガニ 増援ですか、運がいいことだ、そうになると少々、武が悪いですね、悪いですね

ガニ いいでしょう、榎川さん、第17ブロックの敗北を認めます、よくぞこんな単期間で陥落させました、賞賛に値します

ガニ ですが、このまま我々もタダで引き下がる事はできません、なので

(手の平から流体金属の球体が現れる、次の瞬間、カシユーの左目と球体が置換される)

バシユンツ!

カシユー ううう、あああああああああ

リリユー カシユーさん!

ガニ 星の導き手の中でも星の巫女がだけが持つという、この星見の目だけは頂いていきますよ

榎川 貴様!

ガニ 榎川さん、あなたは必ず、必ず自身の理想のために我々の力が必要になります、あなたは間違いなくこちら側の人間ですよ

榎川 私が万が一貴様の近くに行くようなことがある時は、貴様を殺す時だ

ガニ ふふふ、楽しみにしています、それでは、それでは

榎川 この屈辱っ、必ずっ!

(空間が歪み、一礼をしたガニとリーが消えていく)

(苦虫潰し)

(へりが降下してくる)

榎川 直ちに病院に向かう、急いで中へ

榎川 この男性には「時計」を打ち込んだのである、移動に気を付けて

巳柱 はい! 皆さんもこちらへ

(へりに乗り込む、飛び立っていく)

(へりの中)

檜川 巳柱くん、助かった、とても

巳柱 棧俵さんと削り一族の方々のおかげです、街にHIIの
メディカルチームもいますのでご安心を

カシユー ううう、ああああああ

(暴れるカシユー、押さえるメディック)

MD 落ち着いてください！

檜川 散々な結果になってしまった、私としたことが

巳柱 檜川さんのせいではないですよ

(うづくまるリリユー)

巳柱 あの方が？

檜川 ああ、コードネームドクター、照砂 龍理さんです

巳柱 あの人が、神の眼に、悪魔の腕の

(巳柱が毛布を持って近寄る)

巳柱 寒くないですか？

リリユー 大丈夫です

(檜川も近寄って話しかける)

檜川 凧弓さんには……会えましたか？

リリユー ……。

(察して静かに立ち去ろうとする檜川)

リリユー 会えませんでした

(振り返る)

檜川 そうですか

檜川 残念です

リリユー 僕のせいでこんなことに

檜川 いえ、あなたではない、言うなれば皆、です

檜川

あなただけが何かを背負ったところで事態は好転し
せんし、あなただけが背負えるものなど、どこにもな
い

檜川

もしあなたが何かを背負えると思っている、背負える
ものが存在すると思うのであれば、それはただのなん
の役にも立たない自惚なだけです、すぐ捨て置きなさ
い

リリユー

すいません

操縦士

街の到着までおよそ15分です

檜川

到着次第、患者二人を直ぐメディカルチームに対応さ
せましょう

「世界創生に7日かかるなら、滅亡にも7日かかる」

(建物の内を歩いているリリユー、ふと会話が聞こえてくる)

檜川

このような事態になり、なんと謝罪すればいいか

ソルデオ

あなたのせいじゃないさ、そもそも星の導き手に災難
はつきもの、それを了承した上で皆毎度任務に就く、
珍しい話ではないよ、今までも多くの導き手がそうや
ってこの世を去った

ソルデオ

ましてやあなたのことだ、最善を尽くしたんだろう、

その身体の傷がそれを物語ってるさね

檜川

本当に、申し訳ありません……。

ソルデオ

あいつらは出来が良かったからね、いつかこんな日が
来るとは思っていたけど、少々、早かったね

檜川

……。

ソルデオ

二人の容態はどうなんだい？

檜川

カシューさんの左目は敵の攻撃に使われた金属を球体にしたものと眼球の置換が行われた状態で、できる限り眼球部分に残った金属の切除を試み、現在は安定しています。ですが視力や遠近感などへの影響は大きく残りま

ソルデオ

す
生きてりゃいいのさ、生きていれば何だってできるさね、あの子はそれくらいがちよつと静かになっていくらいだよ

(間)

ソルデオ

スーラジは、もう助からないのかい？

檜川

時針という特殊な器具で患部に流れる時間事態を止めているのでこれ以上今は悪化しないのですが、時間を止めていられるのは7日間なのでそれまでに診察、検査、治療、手術の方法を導き出せなければ、あの傷では助かりません

ソルデオ

そうかい

そうだ、あの祭壇に行った若い先生様は、名医なんじゃないのかい？ 誰でも治せるすごい医者じゃなかったのかい？

檜川

彼はどんな病、どんな怪我をも治せる特殊な力を持つと言われているのですが、愛している人間にだけはその力を発揮できないというデメリットを持っているんです、もちろん試みてもらったのですが、やはり難しく

ソルデオ

そうかい、それは、残念だね

ソルデオ

けどそれは、それだけあの先生様はスーラジやカシューのこのことをこの短期間で愛してくれたということだろ

う、それはあいつたちがなにより仕事を親身によくや
ったということだろうね、あたしは、それが嬉しいよ

榎川

……。
変わってあげたいね

ソルデオ

……。
こんな老人が生き残るより、どんな形であれ若者が生
きる方がよっぽど価値があるよ

ソルデオ

なあ、どうにかならないかい？ 私の命でも何でもや
るさ、あんただって特別な力を使えるんだろう、それ
を使ってどうにかスーラジを助けることはできないの
かい、なんでもする、なんでもするよ

榎川

ソルさん……

あの子は確かに、確かに悪人だった、でもね、もう十
分に罪を償ったんだよ、私がそれを一番知ってるん
だ、これ以上あの子に何かを課すなんてそんな酷なこ
としないでおくれよ

ソルデオ

頼むよ、ううう、もう目の前で誰かが死んでいくのを
見るなんて耐えられる身体じゃないんだよ。う、うう
う

榎川

今も人想研が総力を上げて、治療にあたっています、
必ず、必ず助けます

ソルデオ

神様、ああ、四霊峰よ、どうかあの子を、スーラジ・
アマン・マノイを、どうか、どうか、お救いください
……

榎川

……。

（世話役、付人がソルデオの元にくる）

（リリユー、静かに立ち去る）

（泣き崩れるソルデオを抱えて部屋を後にする、立ち尽くす榎川）

「外伝 魔女と神童の邂逅」

(大きな図書館にポツンと座り込む女性、そこに男性が歩いてくる)

寺場 あ、え？ あのー、ちよつと

(本を読み漁る女性、無視)

寺場 おーい、ちよつとちよつと、困るなあ、一般の方がこ
こ入っちゃいけないんですよ

寺場 ちよつと、些々利ちゃーん、いるー？

(遠くから聞こえてくる)

些々利 はーい、いますー！

寺場 この人、だれー？

些々利 ああ、凧弓さんっていう方らしいですよ、道乃さんが
呼んだとか何とか言っていましたよー

寺場 また勝手なことをするんだよあの人は、強引極まりな
い

道乃 ごめんごめーん、お待たせー！

凧弓 あ、わざわざすみません

道乃 これで合ってるかな？

凧弓 はい、合ってます、合ってます！ まさかこんなところ
で原書に出会えるなんて！

(本抱きしめ)

道乃 喜んで頂けたなら何より、ああ、寺ちゃん

寺場 困るよ、道乃さあん、ここは部外者は立ち入り禁止な
んだってば

道乃 しょうがないじゃない、結果として彼女が部外者じゃ
なくなれば〇Kでしょ？

寺場 いや、何言ってるんの、因果逆転とかそういう問題じゃ
ないよ

道乃　ねえ、あなた、やりたいことがあってここに導かれた

んでしょ

凧弓　そうなんですかね、まあ、あつたてというのが正しいです、もう死んでしまったので

（本読みながら）

寺場　死んでしまった？　死んでんの？　死んでんのにここに

にいの？

ちよつとうるさいよ、寺ちゃん

道乃　あなたはそれでいいの？

凧弓　いいっていうか、仕方ないっていうか、まあ私の使命を任せられる奴に任せてきたんで

申し訳ないけど多分、それ失敗するよ

え？

道乃　今の彼ではあなたの理想には辿り着けない、そこに連れてって見せてあげようか

凧弓　何言ってるんですか、そんなことわからないでしょう

道乃　わかるよ、私にはわかる、見てきたから

見てきた？

悪魔の旗、皮肉は強いけどいい名前よね

凧弓　なっ……なんでそれを

道乃　このままでは彼は残念ながら悪魔の旗を振れずに年老いてメスを置くことになる、そしてそれを一生後悔し、あなたに毎日謝罪をしながら孤独に死んでいく

……。

凧弓　それでいい？

道乃　いいとかどうかではなく、今の私に何ができるっていうんですか、死んで身体もない今、何ができるっていうんですか！

道乃

けどあなたは今ここにいて、魂と精神は不滅だから、ものは捉えよう

凧弓

じゃあ、ここだったらその最悪を避ける何かが私にできるっていうんですか？

道乃

できるよ、そのかわり私にも成し遂げたいことがあるからそれも手伝ってほしい

凧弓

……。

道乃

あなたが主役の物語は無事終わった

道乃

そして大事なのはここから、別の世界でああなたの第二の物語が始まる、もう一人の愛しい主役をあなたが支える大事な物語

凧弓

もう一つの物語

道乃

物語というものは、主役だけじゃ成り立たないからね私にも、まだやれることがある

道乃

奇跡を起こしましょう、彼のために、世界のために

凧弓

あなたも奇跡、好きでしょう？

道乃

はい！ さすが！ 私が見込んだだけのことあるう！ さっそ

寺場

く始めましょう！
展開が早いなあ、おい

道乃

寺ちゃん、言ってたあの部屋借りるわね
そんな簡単に言いますけど、あそこはすごく調整が難

寺場

しくて
私を誰だと思ってるの？ 天下のオールSランクの因
果計算師であり、魔女

(にやり)

寺場

そうだった、あの「魔法使い」の嫁…… (とほほ)

道乃 些々利ちゃん、計画を実行するわ、カバーよろし

く！

些々利 はい、任せてください！ 準備、始めますね！

寺場 話聞いてくださいよ！

道乃 時として主役ではないものの活躍は主役を遥かに凌駕

する活躍を魅せるもの、あなたが自身の人生でそれを成し遂げてきたこと、そしてその重要性を一番知っているのはあなた自身

(はああ)

寺場 なあ、あんた、凧弓さんって言ったか

凧弓 はい、大興寺 凧弓と言います、よろしくお願いしま

寺場 す あんたは世界というものをどう捉えている、この回答

次第では帰ってもらおう

凧弓 世界を……、どう捉えているか……

(ごくり)

寺場 どうなんだ？

凧弓 「世界はあなた、あなたは私、私は世界」

(凧弓にっこり)

寺場 ……、やりましょう

道乃 やった！

寺場 協力はしますけど、諸々マジ気をつけてくださいよ

道乃 任せときなさい

寺場 はああ

寺場 彼は本当に来るのか、ここに

凧弓 来ますよ、龍理くんは、必ず、約束したので

「冷たく、そして温かく、残された者の輝きと嘆き」

(夢の中、走馬灯)

(すまない、すまない、なぜ、なぜ)

(もう限界です、先生、そんなことは、成せなかった、何も残らなかった、旗も振れなかった、ごめん、ごめんよ、君との約束も、すまない、僕は、君に会えない)

リリユー　　っはぁ！　はぁ、はぁ、はぁ

(ベッドで目が覚める、窓から変わらぬ街が見える)

(いつものバーに降りて行く、スーラジ、カシユーとの出会いを思いだす、心が傷む)

(相変わらずお客さんが多い、辺りを見回す)

男性　　相席でよければ、ここどうぞ

リリユー　　あ、ああ、すいません

(顔までローブ姿の男性の誘いに乗る、座る、飲む)

男性　　どうかなさったんで？

リリユー　　いえ……いや、なんとはいえばいいか

男性　　悩んでらっしゃる？

リリユー　　自分でも、あまりにいろんなことが目の前で起こって何が何だかわからなくて

男性　　そうでしたか……

(間)

男性　　かああああ、なんともしけた顔だなあ、おい

(顔にかかったローブを取る)

リリユー　　カ、カシユーさん!?

カシユー　　しーっ！病院から抜けて来てんだから、大きな声出さな！

リリユー　　どうして！

カシユー　　病院では酒が出ないから来たんだよ、当たり前だろ

リリユー　だめですよ、そんな！

カシユー　うるせえな、飲みてえんだから仕方ないだろ、あの誰だっけ、女、巴柱って言ったか、あいつの目を盗むのは意外と簡単だったんだ、なんか食いもん渡したら普通に出してくれた

(ガハハ)

リリユー　そんな、バレたら檜川さんに怒られますよ

カシユー　あいつはいいだろ

(ぐびぐび)

(ちびちび)

リリユー　カシユーさん、ごめんなさい

カシユー　ん？　なにが？

リリユー　目を、治せなくて

カシユー　別に、出来ねえもんは出来ねえんだから仕方ないだろ、お前眼科じゃないらしいしな

カシユー　けど、なかなかこの眼帯姿もカッコよくないか？

(ふふん、しんみり)

カシユー　スーラジのことは、まあ残念だけどって、まだ死んでないけど

カシユー　人はいつか皆死ぬからな、スーラジは少し早かったってだけだ、それもお前のせいじゃない

リリユー　……。

カシユー　スーラジだって生半可の覚悟で星の導き手になんかかってない、この職業はそんな楽な仕事じゃあねえんだ、なめんな

(ぐびぐび)

カシユー　ま、俺も引退かなあ、この目じゃ雪山を読むことも難しいだろうし、再就職か、バーのおっちゃん雇ってく

れるかな、そしたら酒飲み放題、レモン漬け食べ放題
だよな、あっはっは

(ぐびぐび)

リリユー　僕があの時、スーラジさんとカシユーさんを席に誘わ
なかったら

カシユー　ん？

リリユー　そもそも僕がエク・サースに来なかったら、僕が医者
なんかにならずに凧弓さんにも会わなかったら

カシユー　誰も、傷つかずに済んだって？

カシユー　人間が誰も傷つけずに生きることができるとでも思っ
てんのか？

カシユー　誰も傷つかない世界は平和で優しくて望ましいって？
くそかよ、目の前が辛すぎて自分が紛いなりにも歩い
てきた道すらも否定するのか？　ああ？

リリユー　僕は

カシユー　お前は何様なんだよ、お前は何がしたいんだ

リリユー　僕は、どうすれば

カシユー　それもわからないお前に俺が何か言って何とかなんの
かよ？

カシユー　俺の今の気持ちも、あの時、あの瞬間に見たこともな
い敵に怯えて何も出来ず目の前で相棒が死に近づいて
いく姿を見ることしかできなかった俺の気持ちもわか
らない、それを想像することもしないお前に、俺が何
か言って目の前が何とかなんのかよ！

リリユー　……。

カシユー　……、ならねえだろ……

カシユー スーラジもそんな人間には救ってほしくないっていう
さ、あいつはお前に救ってほしいなんかこれっぽっち
も思っていない

カシユー あいつはあいつの人生を全うした

カシユー だから相棒の俺もそうする、自分の人生に嘘をつか
ず、胸を張って正直に生きて、人生を全うする

カシユー お前もそうしろ、ここで起きたこと、ここでの全ての
出会い、何もかも全てを忘れて、国へ帰れ、それでい
いんだよ

カシユー お前は、悪くない

カシユー いつか必ずあの世にいるあいつに笑顔で再会して、ま
た一緒に酒を飲む、俺はな

(2人分の支払いの硬貨を置く)

巳柱 あ、ちよつと、流石に抜け出すには長すぎるよ

(もぐもぐしながら登場)

カシユー ちょうど帰るところだった

カシユー 最後に、そんなだから凧弓さんにも会えなかったんだ
ぞ、国に帰ったら、考え方、生き方を改めろ、殺すぞ
リリユー ……。

(二人をチラチラ)

(出ていくカシユー、追いかける巳柱)

(実は遠くの席に檜川)

「その道は導かれたのか、自身で切り開いたのか」

(休憩場所にて、談話室的な?)

榎川 ここにいましたか

リリユウ ああ、榎川さん

榎川 我々は事後処理がまだあるのでしばらく残りますが、あなたは明日の便で帰れるように手配をしました、これを

(チケットを手渡す)

榎川 専用機で快適に送ることができず、申し訳ありません

リリユウ スーラジさんは

榎川 今も人想研総力をあげて治療にあたっています、時計の残りの日数も少ないので

リリユウ そうですか

榎川 今回の件、このような結果になった責任は全て私にあります、凧弓さんからの依頼も完璧にこなすことができなかつた

リリユウ ……。

榎川 ですが、世界は続きます、私は生きとし生ける人間としての役割を果たし続けます

リリユウ 強いんですね

榎川 強さなどそこには関係ありません、人として、やるか、やらないか、それだけです

榎川 いくら悩んでも、目の前は好転しません、好転させるためにはとにかくなんでもいいので積み上げていくしかない、私は立場上であれ、それを多くの人間に望まれている

榎川 私に向けられたそのありがたき期待に、次こそは必ず応えたい

リリユー

……。

リリユー

今の僕に期待をする人なんて

榎川

人は自身の遙か想像以上に動いているものです、それがわからないのはあなたが想像していないだけ

榎川

あなたはノーティス、そしてコンセプトマニピレイターである以前に医師です、それなのにスーラジさんの治療方法を模索する会議に参加しなかった

リリユー

それは……

榎川

役に立てないから？ 邪魔だから？ 本当に？

榎川

役に立てなかった自分がそこにいると自分が辛いからでは？

リリユー

そんなことは

榎川

では、なぜ？ 今も世界中の医師がたった一人の見知らぬ患者のために治療方法を死ぬ気で模索している、あなたは悪魔と呼ばれるほどの名医だと聞く、だから凧弓さんがあなたに大いなる使命を託したのでは？

榎川

あなたにとってはかけがえのない人間だろう患者の延命にあなたは力を貸さなかった

リリユー

そんなつもりじゃ

榎川

では、誰を守っているんです？ 今優先すべきはどこの誰なんですか？

榎川

多くの人間があなたを信じ、さまざまな言葉や、想いを託してきたはずだ、それはなぜあなたに？ なんのために？

（鈴子

当たり前じゃない、何事にも必ず意味がある、たとえばあなたにとって辛いことだとしても、必ずそこに意味はある、そしてその先に希望が必ずある）

（寺場

これでこの旅を終わりとするかはあんた次第だ）

(スーラジ) だが君は生きなくてはならない、それが凧弓さんとの約束なんだ)

(ソルデオ) けどそれは、それだけあの先生様はスーラジやカシューのことをこの短期間で愛してくれたということだろう)

(カシュー) お前もそうしろ、ここで起きたこと、ここでの全ての出会い、何もかも全てを忘れて、国へ帰れ、それでいいんだよ、お前は、悪くない)

檜川 奇しくもこの世を去ってしまったものがあなたに託した祈りをあなた自身で無碍にすることは絶対に許されない、自身の出来る限りの最善を尽くさなければならぬ

(凧弓) もし万が一のことがあったら、どんな方法を使ってもいいから必ず会いにきてほしい、一度だけでいいから、その時に全部話すね)

檜川 それが責任、残されたものの責務です

リリユー 僕だけの、責務

檜川 私には私の役割がある、それはあなたにも必ず

檜川 あなたはよく頑張った、お疲れ様でした、明日私は見送ることができないのでここで、帰路もどうぞ、お気をつけて

(檜川、静かに立ち去る)

「逆鱗が今」

(夜の病室、ガラスの向こうには呼吸器など様々な延命器具をつけたスーラジ)

(それを静かに見つめるリリユー)

リリユー ……。

リリユー スーラジさん、僕は大了た人間なんかじゃないんです、医者になったのも別に何か志があったわけではなくて、流れる身を流れるままですら自然とそこにいるんです、誰かを救うことにも特に何も考えてなんかいなかった、そんな最低な男なんです

リリユー そんな中で凧弓さんに出会った、彼女の志やその戦う姿、彼女の運命、全てを知って、僕は惹かれて、戦う意味を知った

リリユー 自分なりに戦っているつもりだった、どんなにこれが悪に手を染める行為だとしても、全ては彼女のため、今思えばそれも言い訳だったのかもしれない。でも虚しくも彼女は息を引き取った、僕が助ける予定だったのに、そのために頑張ってきたのに、手術を終えて彼女と遠く二人きりで静かに暮らしていくつもりだったのに、何もできなかつた、してあげられなかつた僕はまた、また失うんでしょうか、凧弓さんのように、あなたも

リリユー ……。

(ピツ、ピツ、ピツ、ピツ)

(楢川 強さなどそこには関係ありません、人として、やるか、やらないか、それだけです)

(ギリリ、ギユギユツ)

龍理 ……。

「星の導き手」

(夜明け、門の前)

(吐く息が白い龍理)

(ザクツザクツ)

榎川 奇遇ですね、出発の時間にはまだ早すぎると思います

が

龍理 榎川さん……

榎川 行くんですか、祭壇へ

龍理 ……はい

榎川 付き合いましたよう、私もかつてあなたと同じ理由で銀

河の祭壇を訪れた者です、道案内くらいはできます

龍理 あ、ありがとうございます

榎川 私には私の約束があるだけです、さあ人が来ないうち

に

(ザクツザクツ)

カシユー エク・サースでクライアントの横取りはかなりの御法

度なんだぜ、榎川さんよ

榎川 おっと、これはこれは

龍理 カ、カシユーさん

榎川 まさか契約が続いているとは

カシユー 当たり前だろ、クライアントが行きたいって言ったら

何回でも連れてってやるのが星の導き手の役割なんだ

よ

カシユー 行くんだろ？

龍理 はい

カシユー 一人で行くつもりだったわけか、死ぬ気かお前

龍理 たとえ死ぬんだとしても

龍理 それでも行きたい、行かなくてはならない

カシユー 次はないぞ、これで最後だ

龍理 はい！

カシユー 行こう、あんたもはぐれんなよ

櫛川 もちろん

ギギギギ

(門が開く、吹雪に消えていく3人の後ろ姿)

(途中の山小屋で祈りを捧げる)

(銀河の祭壇へ到着する)

(手順を踏んで、あっちの世界へ)

「再会、使命、誰かと誰かが手を取り合うこと」

(相変わらぬのモヤ、晴れていく)

凧弓 ようやく来たね、さ、はじめよっか

(建物の中に消えていく凧弓、ついていく龍理)

凧弓 はい、これ

(複数のカルテを渡される)

龍理 これは？

凧弓 なに？ カルテでしょ？ サッと目を通して早く腕ま

で洗いなよ

(凧弓、洗い始める)

龍理 どういうこと？

(促されるまま、手術着を着る)

凧弓 時間がないから、さあ、行こう

(室内に入ると中は手術室になっている)

凧弓 些々利ちゃん、結局時間はどうなった？

些々利 長く取れて30から40分が限界です

凧弓 それでも全部だと長丁場よね、おっけい、頑張ってる

些々利 よろしくお願いします！

凧弓 道乃さん！ 準備いい？

(物陰からグー)

凧弓 今から順番に現れる異なる時間軸の10人の患者をあなたと私で手術をして救っていくわ、とにかく時間がないの

龍理 手術？ 10人を救う？

凧弓 やりましょう、一人目 対象名ジェラルド・キーツ・

サンヴァーン、年齢21歳、時間軸2045年、アメリカ、ノースカロライナ、ノーティス確認済み、脳底動脈分岐部動脈瘤の手術を行います

凧弓 龍理先生、お願いします

龍理 ……。

凧弓 私がカバーするから

龍理 ……。

(手術を開始する、手術が成功する)

龍理 ふうう、はあ、はあ

凧弓 久々に見るけど相変わらず、さすがね

龍理 ああ、いや

凧弓 じゃあ、すぐ次行くから

(患者が運ばれてくる)

凧弓 二人目、対象名 九城 暁人、年齢39歳、時間軸2002年、日本、愛知県、否ノーティス確認済み、横隔膜裂孔ヘルニア手術を行います

(その後も手術をこなしていく、疲労していく)

龍理 なんのためにこんなことを？

凧弓

この運ばれてくる人たちはね、生まれも育った場所も違うけど、どういう形であれこの世界を救うきっかけになると運命づけられた特別な人たちなの

龍理

この人たちが世界を救うきっかけの特別な人たち……？

凧弓

だけどその運命を成すために「世界」から業、宿命を背負わされ、それをいかに乗り越えるか、そして世界を救う役割を担える人間であるか否かを「世界」から試されている存在でもある

龍理

「世界」？

凧弓

今言った「世界」は、言うなれば人類の集合意識、宗教的側面からみた世界認識、神話における星の認識、ガイア理論、メデア仮説、阿頼耶識理論などの様々な解釈が指す世界と同じ認識でいてくれていい

凧弓

そしてその業や宿命が時として自分だけではどうしようもない形、その一つとして病や怪我という形でその人たちを襲い、その現状をどう他の人間が助け、対処するのか、そして様々な人間で形成された社会がどう対処、対策していくのかも実は「世界」に試されている

凧弓

今回のこの手術たちは今まで人類が行なってきた対処、対策とは全く異なる別の角度からそれらを試みるという壮大な計画の一部なの

龍理

壮大な計画……

凧弓

じゃあ、次行くよ

(手術を開始する、手術が成功する)

(そして最後の一人、直前)

凧弓

はあ、ふう、じゃあ、最後の

龍理 もういい

凧弓 ?

龍理 僕は、こんなことをしたくてここに来たんじゃない
凧弓 そういうのいいから、早く準備して

(がしゅん)

龍理 なんで、なんで

凧弓 ?

龍理 僕はこんなに多くの人を助けられるのに

凧弓 ……。

龍理 僕はなんで君を…

凧弓 それは、もう終わったこと

龍理 終わってなんかかない！ 何一つ、終わってなんかかない
んだよ…

龍理 僕はあの瞬間から、あの手術室から何も変われずに、
また一人、大切な人を

龍理 助けられない…

龍理 もう嫌だ、なにもかも、もう嫌なんだよ

凧弓 あなたはね、まだ理解できてないだけなの、それだけ
龍理 うう、ううああああああああ

龍理 いやだ、いやだあ、もうわからない、なにも、わから
ない、ううう、ごめんよ、うう、ごめん……なさい

(空間が揺れる、崩れそうになる)

「The Great Calculation Ⅱ 大いなる計算Ⅱ」

(別室オペレータールームにて)

些々利　　まずいです、このままいくと龍理さんが龍理さんの意思でこの能力を自身から消失させてしまいます、そしてこの空間から強制退去させられてしまう

些々利　　あああ、因果誘導率もみるみる下がっていきます
道乃　　違うというの、この計画を成功させるための医者は、彼じゃないと

(唇、噛み)

些々利　　そんな、でも因果計算はどこも間違ってたんですけどすよね？　何度も試算してようやく道乃さんここにたどり着いたって言ってたじゃないですか

道乃　　そもそもこの10人を救う医者役割は凧弓さんが担うはずだった、当たり前だけど何度因果計算をしても、その結果が出てきたから、私はそれを信じて根本原理に彼女を設定した

道乃　　でも何度その続きを試算しても彼女はこの場所に辿り着けずに死を迎えてしまう

道乃　　その理由は今の現代医療では絶対に治療できない病の一つにかかってしまうから、でもこの世の全ての病や怪我を治療できる悪魔という存在を発見した、その悪魔、いわゆる彼に治療を成功させても彼女を救うことはできなかつた

些々利　　別の世界線ですか？

道乃　　ええ、唯一彼が治療を成功させる世界線があるの、それでもその後には彼女は亡くなってしまふ、彼女は結局この部屋に辿り着けない

道乃

だから別の仮説を立てた、この場所に来る医者には彼女は彼女ではないのではないか、この場所に来る本当の医者が別にいるのではないかという、根本をひっくり返す仮説

道乃

彼女ではなく、その悪魔をこの場所に辿り着かせるという仮説への大幅方向転換、そして彼をここに来させるためには彼女の死が必要だった、その結果ついに彼女はこの場所に辿り着く

些々利

魂という姿でならこの場所に到達できた

道乃

ええ、勝ったと思った、これで全てうまくいった、の

些々利

どうでしょう……

道乃

……。些々利ちゃん

些々利

？

道乃

燃えるわね、ここで負けるわけにはいかないでしょ

(にやり)

道乃

どこに問題点があるのか、どこに解決点があるのか、今からの再計算で間に合うのか、そもそもが間違っていて、根本原理設定からやり直さないといけないのか、もしそうならまた何年も時間がかかるわね

些々利

そんな無茶な……

道乃

私だってミスをするわ、完璧なんかじゃない、そしてきっと「世界」から私自身も試されている、けど必ず成功させる、魔女と呼ばれる私を見くびらないほしいと「世界」に言ってやりたいじゃない

道乃

そもそも治癒するものを医者と解釈したのが間違いだった？ 何が違うの、どこが違うの

些々利

時間に限りがあります、計算をしないなら決断を

道乃

けど彼女を信じたい、ギリギリまで

道乃

彼女なら、必ず、彼女の悲願の是非は必ずここで決まるはず、凧ちゃんお願い、私に、私に奇跡を見せて

「あなたを愛している、あなたの隣でいつまでも」

凧弓

あなたにとっての世界って何？

龍理

……。

凧弓

あなたは理解できていないだけ

龍理

世界なんて僕にはなかった、ただ何かがそこにあるだけ

凧弓

そうよね、普通はそう、けどあなたは言ってくれた、もうすぐ絶望ではなく、希望を感じられる世界にしてくれるって

凧弓

私を愛しているから、そう言ってくれたんでしよう

凧弓

あれ、嬉しかったな

凧弓

私はあなたが私の治療をできないことをとうの昔から知ってたさ

龍理

え？

凧弓

けど、それでよかった、別に

凧弓

もっと生きていたいとか、そんな利己的な話ではなく、大事なのはあなたと一緒にこの世界のために役に立てればそれでよかった、しかもそれをあなたが引き継いでくれるならなおさら生きるとかどうでもよかった
医者として多くの患者を見て、多くの症例を見た、多くの人を救った、もちろんあなたもそう

凧弓

凧弓

けど、多くの人間も救えなかった、最愛の人の死を、我が子の死を、親友の死を、嘆き悲しみ、壊れていく

人を見るのが一番辛い、そんな人こそ私は救うことができないのが辛かった、もちろん当事者自身も辛いけど、死はそこで終わり、当事者には何も残らない、けど残された人々の苦悩は計り知れない、永遠に悲しみが増幅しかねないから

あなたもそうやって、苦しんだのよね

……。

私も母の死でそれを思い知った、あんなに強かった父が紙切れのようにクシヤクシヤになっていくのを、あんなに優しくかった兄が言葉も話せないほど憔悴するのを

凧弓

だけどその時にあなたが私の背中を摩ってくれたこと、その後、強く抱きしめてくれたこと

凧弓

あれはなんでしてくれたの？ 私を愛していたから？

龍理

……。

凧弓

あなたが私を愛してくれたから、私はこの世界のために続けて頑張ることができた、そしてもっと世界を愛することができた

凧弓

それはこの世界があなたの救った多くの人間が作り出す世界でもあるから

龍理

僕が救った人たちが作り出す、世界……

凧弓

そう、言うなればあなたが救った世界だからこそより愛したいと思った、あなたのその頑張りを尊いと思っ

凧弓

ただってあなたはその力を使わないという選択もできたはずでしょう？ なぜそれを使ったの？

龍理

この力が役に立ってるなら、この力で誰かがこれ以上悲しまずに済むなら

凧

そう、それは個人への愛ではなくとも、この世界を生
きる人間に価値を感じるからじゃない？ 少なくとも
実はこの世界をあなたが愛しているからだと思
う、だからその行為はこの世界への愛情表現の一つな
んじゃない？

龍理

この世界への愛情表現……

凧

今、手術をした9人はいつか、そして今まで世界を救
うきつかけになる運命を背負った人たちっていうのは
言ったよね

龍理

うん

凧

この人たちは確かに重要な存在だけど、命の価値に差
なんかない、今まであなたが救ってきた人たちと同じ
命

凧

それは私の命も同じ、あなたが救ってきた命と私のも
また同じ命

凧

でもあなたは私を愛するが故に命に差をつけてしまっ
た、そして今もそれで大切な人を救えないと嘆いてい
る

龍理

……。

凧

それが間違っていると言いたいわけではないの

凧

けど本当は命に差なんかなくて、同じ世界を生きる人
たちをできる限り平等に救ってきただけ、その人たち
のこともあなたは須らく愛していた

凧

あなたは、それに気づいていないだけ

龍理

気づいていないだけ

凧

同じようにすればいいだけ、何もいつもと変わらない
といっても、あなたはどうせ失敗したら？ とかいう

凧

んでしょ

龍理 いや、それは……

凧弓 だから、これからは私が隣にいてあげる、いつもあなたが頑張る時には必ず、ずっと

龍理 ずっと、隣に？

凧弓 なら怖くないでしょ？ さっきまでの手術も全部大功！ 私が隣にいて失敗なんてありえない、だからこれからもずっと、大成功ってこと

(ふふふ)

凧弓 私も一人では生きてこれなかった、多くの人間に迷惑をかけ、多くの人間に助けられた、だから多くの人間を助けたいと思って医者続けた、そしてまだまだもっとこの世界の役に立ちたい、だからあなたの隣ですっと手伝ってあげる

龍理 弓さん

凧弓 私が死んでも私が愛した世界は残る、私が愛した世界は続いていく

凧弓 たったこの瞬間のためにも、それは想像を絶する数の人たちが私たちに協力を、期待をしてくれている、それは当たり前なんかじゃなくて、とても貴重で感謝すべきこと

(道乃、些々利、寺場、榎川、カシユー、巳柱、ソルデオ、各々の今のカットインなど)

凧弓 だから私はその期待に応えたい、そしてあなたもみんなのその期待に応えてあげてほしい

(病室のスーラジのカットインなど)

龍理 ……。(ギリリ、ギユギユツ)

龍理 わかった、やるよ、やってみせる

凧弓 うん、一緒にね、これからは

(お互い抱きしめ合う)

凧弓 私は、私のこの世界への愛をあなたに託したい

龍理 うん！ 受け取るよ、全部

(別室オペレータールームにて)

些々利 い、因果誘導率が……

道乃 も、戻ってる！ よし、行ける！ この計算で間違い

じゃなかった、やっぱり彼だし、彼女だった！

些々利 はい！ 信じてよかったですね！

凧弓 じゃ、最後、いこうか

凧弓 十人目、対象名 スーラジ・アマン・マノイ、年齢55

歳、時間軸2039年、アフガニスタン、カブール、ノー
ティス確認済み、上腕骨部分再生、縫合及び腹部傷口再縫
合の手術を行います

龍理 ス、スーラジさん？

凧弓 ええ、けどこの彼は今のあなたが知る彼ではなくて、

少し先の未来の彼なの

凧弓 だからこの手術はあなたが現実世界に戻って、彼を助
けるのが大前提

龍理 やれるよ、弓さんと一緒に

凧弓 よし、やろう

(手袋、パッチン)

凧弓 それでは龍理先生、よろしくお願いします

龍理 凧弓先生も、よろしくお願いします

凧弓 はい、お任せください

(手術を開始する、手術が成功する)

凧弓 ふう、お疲れ様

龍理 弓さんも、お疲れ様でした

(ゴゴゴゴ、空間が縮小し始める)

凧弓 時間か、短いようで長く、長いようで短かった

龍理 弓さん、本当にありがとう

凧弓 こちらこそ

凧弓 龍理くん、ずっと私のためにありがとう、会うの遅く
なっでごめんね

凧弓 私はずっと、ずっと幸せだったよ

龍理 そうか、そうだったんだね、僕も、ずっと幸せだった

凧弓 もう、一人じゃないからね

龍理 うん、うん、弓さん

凧弓 あなたを愛してる、あなたの隣でいつまでも

龍理 僕も、あなたを、凧弓さんを、いつまでも、いつまで
も愛してる

(凧弓、笑顔、龍理が消えていく)

(空間が縮小、ホワイトアウト)

(目が覚めると祭壇)

カシュー おかえり

(優しい笑顔のカシュー)

(龍理の目には涙が流れている)

(静観する檜川、すこし笑う)

龍理 戻りましょう、スーラジさんの元へ

「天使と悪魔が共に旗を振る」

(急ぎ、町に戻ってきて、手術を開始する龍理)

(凄まじいスピードの手術姿の龍理)

(それを見守るみんな)

カシユー　　す、すげえ……

巳柱　　ありえない……ですね

龍理　　私も初めて見た時は目を疑った、とても人間の技とは思えない

龍理　　だが初めて見た時は、彼以外の腕が黒いモヤに包まれ
禍々しい姿をしていた

(龍理の腕以外の腕が白く輝くように滑らかな姿に変わっている)

巳柱　　成長したんですね

龍理　　(その腕はあなたなんですね、凧弓さん)

巳柱　　これは能力への認識の変化ってことですか？　てことは彼は本格的に？

龍理　　コンセプトマニピレーター、概念使いになったようですね

(みるみるうちにスーラジのお腹の傷を修復し、縫合されていく)
(手術が終わる、ほっとした顔の龍理)

(泣いて喜ぶソルデオ、龍理を抱きしめるカシユーと巳柱、微笑む

龍理)

(数時間後、龍理、休憩中)

明奈　　あなたが照砂　龍理さん？

(若い女性が立っている)

龍理　　はい、そうですが、あなたは？

明奈　　私は田鍋　明奈、スーラジ・アマン・マノイの後見人
みたいなやつやってんの

龍理　　あなたが、明奈さん！　話は聞いてます！

明奈　へえ、なんかパツとしない男、とても凧弓先生の想い

人とは想像し難いけど

龍理　あ、ははは、それは、すみません

明奈　スウが死にそうっていうから、急いで来てみたらなん

かももう全然峠は越えたから死ぬことはないっていう

し、なら私はなんのために来たのか意味わかんないん

だけど、って感じ、こんな辺鄙なとこまで、はあ

龍理　あ、ああ、それはなんと云えばいいか、あはは

明奈　あなたが治したんでしょ？　関わりが強い人間は治せ

ないんじゃないかったの？

龍理　ええ、けど凧弓さんが手伝ってくれて

明奈　そう、会えたんだ

龍理　……、はい

明奈　元気してた？

龍理　ええ、生前と何も変わらず、元気でした

明奈　ふふ、先生らしいかも、よかった

(にここにこ)

明奈　まあ、手術お疲れ様

龍理　ありがとうございます

明奈　次、凧弓先生に会う時があったら伝えてくれる？　約

束果たせてよかったね、おめでとう、ありがとうございますって

(間)

龍理　はい、必ず

(明奈、去っていく)

明奈　あ、それと

龍理　？

明奈　スウのこと……助けてくれてありがとうだね

(龍理、笑顔、一礼)　(笑いながら去っていく明奈)

「新たなる門出、龍の帰巢」

(龍理帰る時、駅にて)

(車椅子姿のスーラジ、それを押すカシユー、ソルデオ)

(檐川、巳柱、龍理も荷物を持って歩いている)

スーラジ 本当に世話になった、リリユーさん

スーラジ 助けてくれて、本当にありがとう、君との出会いに感謝する、そして凧弓さんにも深い感謝を

龍理 こちらこそです、スーラジさん、ご無事で良かったです

カシユー 初めて会った時のちんまいガキとは大違いだな、お？

なんか老けたか？

龍理 カシユーさんこそ、なんか性格が丸くなりましたか？

カシユー うるせえよ、この、この

(グリグリ)

龍理 痛い、痛い、あはは

龍理 本当に目、いいんですか？

カシユー ああ、これはこれで気に入ってる、もしまたなんかあった時はよろしく頼むな

龍理 はい、いつでも呼んでください

ソルデオ 先生様、本当に、本当にありがとうね、スーラジがこうしていられるのも、カシユーがこうしてバカできるのも、先生様のおかげさ、ありがとう、この恩は一生忘れないよ、またエク・サースにいつでも帰っておいでね

龍理 ソルデオさんもどうかお元気で、お世話になりました、ありがとうございました

(汽笛が鳴る、電車に乗る)

檐川 日本に戻ってから、またお会いしましょう

龍理 はい！

巳柱 やることいっぱいですよ、覚悟しといてくださいね！

龍理 あはは、はい！

(扉は閉まるが窓は空いている状態)

檜川 ようこそ人想研へ、ではまた

(龍理、うなずき)

(檜川、微笑み会釈)

(プシュー、発進)

カシューー ジャあなー！

龍理 みなさーん、ありがとう！ さようならー！

(一同、手を振る)

(どンドン電車が小さくなっていく、ずっと手を振るみんな)

「エピローグ 白い切符と星の巫女」

(少し先の未来、バウンダリーセントラルにて)

(大きなカバンが二つの大荷物、電話中)

龍理 はい、ええ、あまり良い手ではないと思いますが、僕が今何かと忙しくて時間がないので、因果の魔女さんに無理やり時間軸ごといじってもらって、こっちの電車で行こうかと、はい、本部にはできる限り内密にお願いますね、あはは

龍理 目的地はアフガニスタンで間違いなかったですよ？
首都のカブールについたら現地の執行官と合流します、そこでまた連絡します

龍理 今回は大きな作戦なんですよ？ ん？ 現地の一神教を根本から廃して、多神教を敷き直す？ なんかすごいこと言ってますね、まあ諸々了解しました、最善

を尽くします、はいはいお土産は忘れず買って帰りま
す、食べ物ですよ、はい、それではまた後で

(ピツ)

女性 大荷物ですね、手伝いましょうか

龍理 ああ、すいません、ありがとうございます

(よいしょ、よいしょ)

龍理 どこか行かれるんですか？

女性 少し遠くまで？ けど切符黄色なんですよね

龍理 ふむ、ならそこまで遠くはいけません

女性 えへ

女性 お兄さんはどちらまで？ 切符は何色なんですか？

龍理 これです

(ものすごく長く連なった白い切符)

女性 白！ 初めてみました！

龍理 珍しいでしょう、お、きましたね

(白い列車がホームに入ってくる、ドアが開く)

龍理 それでは、またお会いしましょう

龍理 星の巫女さん、そして、ありがとう

鈴子 ?

(龍理、白い電車に乗る、電車が出る)

つづく

次回作

「砂と太陽の救世主 Bless you for loving many, not just one.」

(仮)